2004年度

講義計画

桃山学院大学

講　義　計　画

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習Ⅰ	０５	通　期	——	竹　中　麻由美

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
3　演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

［成績評価の方法］

授業への参加状況（出席率、課題などへの取り組みの姿勢、課題の達成状況など）およびレポートなど提出物（期限厳守、内容など）、小テストなどにより、総合的に評価する。

［教科書］

『対人援助ワークブック』　（久美株式会社）

［講義計画］

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。
さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

1　実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
2　実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［参考文献］

授業中に、適宜紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習Ⅰ	０６	通　期	——	鶴　宏　史

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
3　演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

［成績評価の方法］

出席、授業での態度、レポートにより総合的に評価する。

［教科書］

特に使用しない。

［講義計画］

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。
さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

1　実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
2　実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［参考文献］

●北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子（編）
『ソーシャルワーク演習（上）』（有斐閣、2002年）

●北島英治・副田あけみ・高橋重宏・渡部律子（編）
『ソーシャルワーク実践の基礎理論』（有斐閣、2002年）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉援助技術演習Ⅰ	０７	通　期	―	川　東　光　子

［講義概要・学習目標］

1　社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング）等を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。
2　学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
3　演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解させる。

［成績評価の方法］

授業、課題に対する参加状況（出席率・とりくむ姿勢）レポート等により、総合的に評価する。

［教科書］

授業時に提示する。

［講義計画］

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。
さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

1　実習前においては、具体的な課題別の事例を活用し、相談援助業務に必要な専門援助技術、面接実技、記録実技、評価・効果測定実技等についての指導を行い、講義の内容を深めたり実習の教育効果があるようにする。
2　実習後においては、実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるようにする。

［参考文献］

授業時に適宜紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
老人福祉論		春学期集中	４単位	坪　山　孝

［講義概要・学習目標］

1　老人の精神的・身体的特徴や障害について理解させるとともに、老人福祉の社会的背景について理解させる。
2　現代社会における老人福祉の理念と意義について理解させる。
3　老人の福祉需要の把握方法について理解させる。
4　老人福祉に関する法（介護保険法及び老人保健法等を含む）とサービスの体系について理解させる。
5　民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解させる。
6　老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
7　老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具について理解させる。
8　老人に対する相談援助活動について理解させる。

［成績評価の方法 ］

授業時に課すレポート及び試験によって評価する

［教科書］

授業時に指定する

［参考文献］

『老人福祉論』（福祉士養成講座編集委員会編）
『国民の福祉の動向』（厚生統計協会）
他　随時、授業中に紹介する。

［講義計画］

1　高齢社会と老人
　1）老化と老人
　2）家族と老人
　3）社会と老人
2　現代社会と老人福祉
　1）老人福祉理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
3　老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容
　1）把握方法
　2）具体的内容
4　老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容
　1）老人福祉法
　2）介護保険法
　3）老人保健法及びその他の関連法規
5　老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状
　1）在宅サービス
　2）施設サービス
6　民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状
7　老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
　1）組織・専門職
　2）連携のあり方
8　老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具
　1）地域と住環境の整備（バリアフリーへの対応）
　2）福祉用具
9　老人に対する相談援助活動
　1）相談援助活動をすすめるうえでの留意点
　2）具体的事例

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
障害者福祉論		春学期集中	4単位	黒田　隆之

［講義概要・学習目標］

本講義の目標は、学生の皆さんに、障害のある人が地域社会の中で生活するということは当たり前のことであるということを理解してもらうことと、そのためにはどのような支援が必要であるのかということを考えてもらうことである。
教科書の内容を学習するだけでなく、ビデオ教材を用いたり、障害のある人の話を聞いたりするなど、障害のある人がおかれている今の状況を理解できるような講義を行う。

［講義計画］

・障害者福祉の考え方
・障害の概念と障害者の実態
・障害者福祉の史的展開
・障害者施策の体系
・障害者福祉のサービス体系
・障害者福祉の関連分野
・障害者運動と当事者参加
・障害者に対する相談援助活動

［成績評価の方法］

出席、レポート、テスト等により総合的に評価する。

［参考文献］

授業時に提示する

［教科書］

『新版〈第2版〉社会福祉士養成講座　（3）障害者福祉論』
（中央法規出版）

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
児童福祉論		秋学期集中	4 単位	松　本　眞　一

［講義概要・学習目標］

［講義概要・学習目標］

1　現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解させるとともに、児童福祉の社会的背景について理解させる。
2　現代社会における児童福祉の理念と意義について理解させる。
3　児童の福祉需要の把握方法について理解させる。
4　児童福祉に関する法とサービスの体系について理解させる。
5　民間サービスの社会的意味とその現状について理解させる。
6　児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解させる。
7　児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解させる。
8　児童に対する相談援助活動について理解させる。

［講義計画］

［講義計画］

1　現代社会と児童
　1）人間の成長・発達と児童
　2）家族と児童
　3）社会と児童
2　現代社会と児童福祉
　1）児童福祉理念の発達
　2）概念と範疇
　3）役割と意義
　4）児童の権利及び児童虐待
3　児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
　1）把握方法
　2）具体的内容
4　児童福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
　1）児童福祉法
　2）母子及び寡婦福祉法
　3）母子保健法
　4）その他関連法規
5　児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状
　1）在宅サービス
　2）施設サービス
6　民間サービスの役割と意義及びその現状
7　児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具
　1）地域及び住環境の整備
　2）福祉用具
8　児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
　1）組織・専門職
　2）連携のあり方
9　児童に対する相談援助活動
　1）相談援助活動をすすめるうえでの留意点
　2）具体的事例

［成績評価の方法］

秋学期終了時点で定期試験を実施して成績評価を行う。また、出席点も加味される。

［参考文献］

福祉士養成講座編集委員会（編）
『社会福祉士養成講座 第4巻 児童福祉論』（中央法規出版）

［教科書］

松本眞一（著）『児童福祉論』相川書房（1999年改訂）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会保障論		通　期	4単位	里　見　賢　治

［講義概要・学習目標］

1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解させる。
2 社会保障制度の体系について理解させる。
3 社会保障の各制度の概要について理解させる。
4 日本の年金保険について熟知させる。
5 日本の医療保険について熟知させる。
6 日本の民間保険の概要と公的施策との関係について理解させる。
7 社会保障の実施体制及び専門職について理解させる。

［成績評価の方法］

定期試験等で総合的に評価する。
前後期試験のいずれかを受験しなかった者は、単位認定できない。

［教科書］

レジュメを配布する。

教科書を使用するかどうかは検討中。

［講義計画］

1 現代社会と社会保障
　1）社会保障理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
2 社会保障制度の体系
3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
　1）年金保険
　2）医療保険
　3）介護保険
　4）労災保険
　5）失業保険（雇用保険）
　6）家族手当（児童手当）
　7）公的扶助
　8）その他関連制度
4 日本の年金保険制度とその具体的内容
　1）国民年金
　2）厚生年金
　3）各種共済組合の年金
5 日本の医療保険制度とその具体的内容
　1）国民健康保険
　2）健康保険
　3）各種共済組合の医療保険
6 公的施策と民間保険
　1）公的施策との関係
　2）現状
7 社会保障の実施体制及び専門職

［参考文献］

里見賢治　（著）『日本の社会保障をどう読むか』　（労働旬報社、1990年）
里見賢治、二木立、伊東敬文（共著）『公的介護保険に異議あり』
（ミネル　ヴァ書房、初版1996年、増補版1997年）
里見賢治ほか（共著）『福祉財政論』（ミネルヴァ書房、1989年）
一圓光弥（著）『自ら築く福祉』（大蔵省印刷局、1993年）

その他、適宜紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
公的扶助論		秋学期集中	4単位	瀧　澤　仁　唱

［講義概要・学習目標］

1　現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。
2　生活保護制度のしくみと近年の動向について理解させる。
3　生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方について理解させる。

［成績評価の方法］

論述式筆記試験

［教科書］

法改正が多く、適当な教科書が間にあわないので、別途指示します。

［講義計画］

1　現代社会と公的扶助
　1）公的扶助理念の発達
　2）概念と範囲
　3）役割と意義
2　低所得対策の概要
3　生活保護制度のしくみ
　1）目的
　2）基本原理
　3）保護の原理
　4）保護の種類と内容
　5）保護の機関と実施体制及び財源
　6）保護施設の種類
　7）被保護者の権利及び義務
4　生活保護の最近の動向
5　生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連帯のあり方
　1）組織・専門職　2）連帯のあり方

［参考文献］

『社会福祉六法　2004（平成16）年版』（新日本法規）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神医学		通　期	4単位	岡　田　　章

［講義概要・学習目標］

1　精神医学、精神医療の歴史を理解させる。
2　脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。
3　精神医学の概念について理解させる。
4　精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。
5　代表的な精神障害について理解させる。
6　治療の概要について理解させる。
7　病院精神医学および地域精神医学について理解させる。

［成績評価の方法］

春学期　レポート
秋学期　テスト

［教科書］

『精神医学　第1巻』（ヘルス出版）

［講義計画］

1 精神医学、精神医療の歴史
2 脳および神経の生理・解剖
3 精神医学の概念
　1）精神医学の概念
　2）精神障害の成因と分類
4 診断法
　1）診断の手順と方法
　2）精神症状と状態像
　3）心理検査と身体的検査
5 代表的な精神障害
　1）症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を含む）
　2）精神作用物質使用による精神および行動の障害
　3）精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害
　4）気分（感情）障害
　5）神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害
　6）生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
　7）成人の人格および行動の障害
　8）精神遅滞
　9）心理的発達の障害
　10）小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
　11）神経系の疾患（てんかんを含む）
6 治療法
　1）身体的療法
　　①薬物療法とその副作用
　　②電気ショック療法
　2）精神療法
　3）環境・社会療法
　4）精神科リハビリテーション
7 病院精神医療および地域精神医療
　1）病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）
　2）精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）
　3）地域精神医療

［参考文献］

笠原　嘉（著）『精神病』（岩波新書）
山崎晃資ら（編）『現代児童精神医学』（永井書店）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神保健学		春学期集中	4単位	郭　　麗　月

［講義概要・学習目標］

1　精神保健についての基本知識について理解させる。
2　ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。
3　精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。
4　地域精神保健と地域保健について理解させる。
5　諸外国における精神保健の概要について理解させる。
6　関連法規および施設について理解させる。

［成績評価の方法］

レポート、定期試験

［教科書］

（精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編）

『精神保健福祉士養成セミナー　第2巻　「精神保健学」』（へるす出版）

［講義計画］

1 精神保健についての基本知識
　1）精神保健の概要
　2）精神保健の意義と課題
2 ライフサイクルにおける精神保健
　1）胎児期および乳幼児期における精神保健
　2）学童期における精神保健
　3）思春期における精神保健
　4）青年期における精神保健
　5）成人期における精神保健
　6）老年期における精神保健
3 精神保健における個別課題への取り組み
　1）精神障害者対策
　2）老人性痴呆疾患対策
　3）アルコール関連問題対策
　4）薬物乱用防止対策
　5）思春期精神保健対策
　6）地域精神保健対策
　7）ターミナルケアと精神保健
4 精神保健活動の実際
　1）家庭における精神保健
　2）学校における精神保健
　3）職場における精神保健
　4）地域における精神保健
5 地域精神保健と地域保健
　1）地域精神保健施策の概要
　2）地域保健施策の概要
　3）関係法規
　4）関連施策
6 諸外国における精神保健

［参考文献］

適時紹介する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
スピリチュアルケア		秋学期集中	4単位	伊　藤　高　章

［講義概要・学習目標］

現代社会の新しいケアの領域であるスピリチュアルケアについてその必要性、隣接領域との関係、困難性などについて理解する。また、その専門職養成に関わる諸問題についても、事例研究をとおして解明する。

［講義計画］

以下のテーマを含む

宗教とスピリチュアルケア
心理学とスピリチュアルケア
日本文化とスピリチュアルケア
医療現場におけるスピリチュアルケア
福祉現場におけるスピリチュアルケア
スピリチュアルケア専門職
専門職の養成

［成績評価の方法］

授業内で行うロールプレイや相互評価への貢献度
学期末のレポート

［教科書］

窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』　三輪書店 2000

［参考文献］

《 インテグレーション科目 》

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
精神科リハビリテーション学		秋学期集中	4単位	栄　　セツコ

［講義概要・学習目標］

1　精神科リハビリテーションの概念について理解させる。
2　精神科リハビリテーションの構成について理解させる。
3　精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。
4　精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。
5　精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。

［成績評価の方法］

出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

［教科書］

（精神保健福祉士養成講座編集委員会編）『精神科リハビリテーション学』

（中央法規出版社）

［参考文献］

［講義計画］

1 精神科リハビリテーションの概念
1）リハビリテーションの概念と歴史
2）リハビリテーションの理念、意義と基本原則
3）精神科リハビリテーションの概念
4）精神科リハビリテーションの理念と意義
5）精神科リハビリテーションの基本原則と技法
6）わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
2 精神科リハビリテーションの構成
1）精神科リハビリテーションの対象
2）精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
3）精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
4）精神科リハビリテーションの施設
①病院リハビリテーション施設等
②社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
③精神保健福祉センター及び保健所
④その他の協力機関、支援団体
5）精神科リハビリテーションの関連領域
3 精神科リハビリテーションのプロセス
1）リハビリテーション計画
2）アプローチの方法
①病院におけるリハビリテーション
②社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
③地域におけるリハビリテーション
3）疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション
4 医療機関におけるリハビリテーション
1）作業療法およびレクリエーション療法
2）集団精神療法
3）行動療法
4）認知行動療法（生活技能訓練を含む）
5）家族教育プログラム
6）デイケアおよびナイトケア
7）精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
1）精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
①集団精神療法における精神保健福祉士
②生活技能訓練における精神保健福祉士
③デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
④訪問看護・指導における精神保健福祉士
2）社会的リハビリテーション
①日常生活への適応のための訓練
②社会復帰のための相談・助言・指導
6 精神科リハビリテーションの総合化
1）地域リハビリテーション
①地域ネットワーク
②ケアマネジメント
③地域生活支援事業と訪問援助
④家族会および自助グループ
⑤ボランティアの育成と活用
2）職業リハビリテーション
3）精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神保健福祉論		春学期集中	4単位	栄　セツコ

［講義概要・学習目標］

1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。
2 精神障害者の人権について理解させる。
3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。
4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。
5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。
6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。
7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。

［成績評価の方法］

出席状況、レポート、試験を総合して評価する。

［教科書］

（精神保健福祉士養成講座編集委員会編）『精神保健福祉論』

（中央法規出版社）

［参考文献］

［講義計画］

1 障害者福祉の理念と意義
1）障害者福祉の理念
①障害者福祉の発達
②ノーマライゼーション
③リハビリテーション
④生活の質（QOL）
⑤生活支援
2）障害及び障害者
①障害の概念
②障害分類（国際障害分類を含む）
③精神障害の特性
3）障害者福祉の基本施策
①障害者基本法
②障害者プラン
4）現代社会と精神障害者
①精神障害者の概念
②精神障害者と家族
③精神障害者と地域社会
④精神障害者のノーマライゼーション
2 精神障害者の人権
1）精神障害者の権利擁護
2）精神医療における権利擁護
3）インフォームドコンセント
4）地域社会における精神障害者の人権
3 精神保健福祉士の理念と意義
1）精神保健福祉の歴史と理念
2）精神保健福祉士の意義
3）精神保健福祉士の対象
4）精神保健福祉士の専門性と倫理
4 精神障害者に対する相談援助活動
1）精神障害者を取りまく社会的障壁（バリアー）
2）精神障害者の主体性の尊重
3）相談援助活動の方法
①医療施設における相談援助活動
②社会復帰施設等における相談援助活動
③地域社会における相談援助活動
4）相談援助活動の事例
5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律
1）精神保健福祉法の意義と内容
2）精神保健福祉士法の意義と内容
3）関連法について
6 精神保健福祉施策の概要
1）精神保健福祉に関する行政組織
2）精神保健福祉に係る公的負担制度（公費負担医療等）
3）精神保健福祉施策の課題
①精神障害者福祉対策
②社会復帰対策
4）精神保健福祉における社会資源
①精神障害者保健福祉に関わる専門職との連携
②社会資源
7 精神保健福祉の関連施策
1）雇用・就業（障害者雇用促進法等の概要を含む）
2）所得保障
3）経済負担の軽減
4）生活環境の改善

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神保健福祉援助技術各論		通　期	4単位	重　野　勉

［講義概要・学習目標］

1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
3 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。
4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解させる。
5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。

［成績評価の方法］

レポート提出

［教科書］

精神保健福祉士養成セミナー（第6巻）
『精神保健福祉援助技術各論』（へるす出版）

［参考文献］

［講義計画］

1 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
1）疾病及び障害に配慮した個別援助技術
2）個別援助技術の実際と適用分野
3）個別援助技術におけるスーパービジョン
4）具体的事例検討
2 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
1）疾病及び障害に配慮した集団援助技術
2）集団援助技術の実際と適用分野（生活技能訓練を含む）
3）集団援助技術におけるスーパービジョン
4）具体的事例検討
3 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティーワーク）
1）地域援助技術の概念と基本的性格
2）地域援助技術の具体的展開
①ノーマライゼーションの推進と住民参加
②社会資源の活用と開発
③地域社会における連携と調整機能
④家族会、自助グループの支援
⑤ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
⑥地域援助
3）具体的事例検討
4 精神障害者のケアマネジメント
1）ケアマネジメントの原則
①ケアマネジメント
②適用と対象
③人権への配慮
2）ケアマネジメントの意義と留意点
①ケアマネジメントの意義と留意点
②関係機関との連携
3）ケアマネジメントのプロセス
①受理面接（インテーク）
②ニーズの把握とその評価
③目標設定と計画的実施
④包括的サービスの実現
4）チームケアとチームワーク
5）具体的事例検討
5 精神障害者援助と関連専門職種との連携
1）チーム医療における精神保健福祉士の役割
2）専門職等の役割と機能
3）チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
4）協力・連携による包括的保健・医療・福祉サービス

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神保健福祉援助演習		通　期	4単位	栄　セツコ

［講義概要・学習目標］

1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。

2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

［成績評価の方法］

出席・参加状況、レポート、試験を総合して評価する。

［講義計画］

精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個々人に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例研究およびロールプレイ等を行う。その際、次の点に留意する。

1 実習前においては、少なくとも精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取り上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が上るようにする。
2 演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。
3 実技指導等
(1) 面接実技指導
(2) 記録実技指導
(3) 集団実技指導
(4) 評価・効果測定実技指導
4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。
5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。

［教科書］

［参考文献］

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
精神保健福祉援助技術総論		通　期	4単位	辻井誠人

［講義概要・学習目標］

○精神障害者に対する社会福祉施策とその具体的展開場面である援助活動を体系的に理解する。

○精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職（価値及び倫理、専門技術、専門知識）について理解する。

○精神保健福祉士が専門技術を用いる具体的事例を取り上げ、理論的に検証する。

［講義計画］

1 精神障害者とその生活困難性について

2 精神障害者への社会福祉援助活動を展開する専門職
価値及び倫理
専門技術の体系
専門知識

3 精神保健福祉士と専門技術の展開過程
各展開過程における原則
具体的実践例による検証

［成績評価の方法］
期末試験の成績を中心に評価する。レポートの提出を求めた場合はその評価も含める。
出席や授業態度などは期末試験に加算する場合がある。

［教科書］

住友雄資・長崎和則・金子努・辻井誠人編『精神保健福祉実践ハンドブック』２００２年４月　日総研出版

［参考文献］

仲村優一監修『ソーシャルワーク倫理ハンドブック』１９９９年
中央法規出版
岡村正幸、川田誉音編『個別援助の方法論』１９９８年
株式会社みらい
北島・副田・高橋・渡部編『ソーシャルワーク実践の基礎理論』２００２年
有斐閣
その他講義で随時紹介

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ケアマネジメント（旧 ケアマネージメント）		秋学期	2単位	浜 田 和 則

［講義概要・学習目標］
講義概要；要介護等高齢者支援の機関で活用されているケアマネジメントの手法や過程を、講義・演習・フィールドワーク（課題・宿題になります。）を交えて実体験的に学習する。講義等の中では関連領域である、介護保険制度の概要・契約、コストマネジメントやマネジドケア、苦情解決の実際、介護事故対応・防止を主体としたリスクマネジメントについても少しだけ触れたいと考えている。
なお、要介護者等と接する経験がないと講義内容の理解が困難なことが予想されるため、要介護者等施設などでの実習を終了、または開講までに終了予定で、開講期間を通じて欠席せずに来られる人の履修を希望します。なお、講義は出席と講義時に実施する演習の参加を重視する。
学習目標；理論的な理解と同時に演習・フィールドワークを通じて実体験し、将来実務に役立つ援助技術方法概要の習得を目指す。また、この分野に関心を持ってもらうことにより、実践現場へのマンパワーの輩出をあわせて目標とする。

［成績評価の方法］
講義内容を記入した出欠票と演習時の課題物提出、レポートまたは試験により評価。

［参考文献］
白澤 政和　他編「ケアマネジメント講座①～③」中央法規出版、2000年
浜田 和則　他編「介護支援専門員のしごとを支えるQ＆A」中央法規出版、
（財）長寿社会開発センター編「改訂介護支援専門員専門員基本テキスト」2003年
浜田 和則　他編「ヘルパーステーションの運営管理」中央法規出版、2000年、他

［講義計画］
第一回　講義計画とケアマネジメントの概要①～ケアマネジメントの成り立ち～
第二回　ケアマネジメントの概要②～介護保険制度におけるケアマネジメント～
第三、四回　ケアマネジメント過程①～入口、ケース発見、申請・要介護認定調査～
（認定調査体験演習；ビデオ使用、二人ペアで調査面接を体験）
第五回　ケアマネジメント過程②～認定審査会、インテーク、サービス利用契約～
（インテーク・サービス利用契約演習；二人ペアで重要事項、契約内容説明）
第六回　ケアマネジメント過程③
～アセスメント（1）生活ニーズとアセスメント～
第七回　ケアマネジメント過程④
～アセスメント（2）ニーズアセスメントとアセスメント表～
（アセスメント表作成演習；資料、ビデオからアセスメント表を記入）
第八回　ケアマネジメント過程⑤
～ケアプラン（1）ケアプランの種類、構造と社会資源～
第九回　ケアマネジメント過程⑥～ケアプラン（2）居宅サービス計画原案作成～
第十回　ケアマネジメント過程⑦～サービス担当者会議～サービス担当者会議演習
第十一回　ケアマネジメント過程⑧～モニタリングと苦情処理・苦情解決の方法～
第十二回　日本における施設ケアマネジメントへの潮流
第十三回　ケアマネジメントとリスクマネジメント
第十四回　障害者ケアマネジメントと社会福祉基礎構造改革,海外のケアマネジメント

［教科書］
＊未定（教科書を使用するかどうかは開講前に指示します。）

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際社会福祉論		春学期	2単位	伊 藤 高 章

［講義概要・学習目標］
国際社会が直面する福祉の課題を理解すると共に、日本の状況を諸国との関係の中で考える。
国際的なボランティア活動に関わるための基礎知識を身に付けるとともに、国際福祉に一人一人がどのように貢献できるかを検討する。
基本的な英語の読解力および Webページ検索の技術を身につけていることが要求される。

［成績評価の方法］
グループごとの研究報告を中心に評価する。
学期を通してのクラスへの貢献度を重視する。

［教科書］
池上 彰『イラスト図解 世界情勢の地図帳』講談社 2003

［講義計画］
Webページ提示可能な教室を利用し、データを参照しながら講義を行う。
学生はグループに分かれ、特定の福祉領域（貧困、児童、高齢者、失業、ホームレス、医療、保険、難民など）の国際比較、もしくは一つの国の福祉状況を共同研究し、クラスに向けて報告する。

［参考文献］
矢野恒太郎記念会（編）『世界国勢図会』、国勢社
（2003/04年版）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
ボランティア論		秋学期	2単位	大野順子

[講義概要・学習目標]

1995年の阪神・淡路大震災を契機とし、市民社会ではボランティア活動、NPOが活発になってきている。2001年には「国際ボランティア年」と制定され、世界的にもボランティア活動がさかんになっているが、現状は、特に、日本社会では、その環境整備（ボランティアを支援する社会基盤）は不十分である。ボランティア活動が活発になり、ボランティア精神が根付く社会とはどのような社会か？ データや資料より検証し、社会へ提言できればと考えている。

[講義計画]

全14回（予定）＝順番は変更の可能性(有)

1. ボランティア論入門
2. 参加型ワークショップの開催
3. NPO/NGO論 I
4. NPO/NGO論 II
5. ボランティア・コーディネーターについて
6. ボランティア活動を評価すること
7. ボランティアと有償性
8. 教育とボランティア
9. NPO活動検証 I
10. NPO活動検証 II
11. データでみる日本のボランティア活動
12. 事例発表会（学生による）
13. まとめ

※14. 予備日として

[成績評価の方法]

レポート、及び出席状況より評価

（試験は行わない）　※出席カード（毎授業終了後提出）も重要視する

[教科書]

特に指定せず、各回のテーマに沿った文献を紹介

[参考文献]

「ボランティア白書 2004（予定）」（社）日本青年奉仕協会
「ボランティアと市民社会」（見洋書房）立木茂雄 著
「ボランティア・コーディネート」（社）日本青年奉仕協会
「NPOジャーナル」（特活）関西国際交流団体協議会 編集

その他、授業時に適宜紹介する。

福祉 02～

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉発達史		秋学期	2単位	木村和世

[講義概要・学習目標]

明治の恤救規則から現代の福祉までを対象とする。

福祉史を具体的に身近なものとして感じるために、南河内地方の農村や大阪の都市を扱って、その変化を見ていく。

過去の福祉史は決して過去のものではなく、現代を見る眼を養うものであるということを、講義を通して学んでほしい。

[講義計画]

1. 明治期の恤救規則と南河内の村々
2. 社会問題の発生と社会福祉
3. 大正期―都市リベラリズムの光と影
4. 大阪毎日新聞記者　村嶋歸之と大阪
5. 社会事業から厚生事業へ
6. 戦後の混乱と福祉政策
7. 経済成長期の福祉と大阪
8. 現代の抱える問題と福祉

[成績評価の方法]

出席を重視する　テスト、レポートについては講義時に通知する

[教科書]

プリントを配布する

[参考文献]

『日本社会事業史』吉田久一

『都市の近代・大阪の20世紀』芝村篤樹

『大正/大阪/スラム』杉原薫　玉井金五編

『昭和20年　1945年』藤原彰　粟屋憲太郎　吉田裕

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
医療保健福祉論		春学期集中	4単位	小　西　加保留

［講義概要・学習目標］

1．保健医療領域におけるソーシャルワークの理念と意義を理解する。
2．医療の変遷と福祉の理論的枠組みを理解する。
3．保健医療の展開とソーシャルワークの歴史を学ぶ。
4．保健医療ソーシャルワークにおける倫理と価値の問題を理解する。
5．医療と患者の人権について理解する。
6．保健医療ソーシャルワークの対象と相談援助活動の実際を知る。
7．保健・医療・福祉の連携とチーム医療について学ぶ。
8．保健医療における今日的状況とソーシャルワークの課題を知る。
9．医療保障制度の概略を理解する。

［講義計画］

1．医療保健福祉の理念と意義
　1）医療の変遷と社会福祉
　2）医療モデルと福祉モデル
2．保健医療分野におけるソーシャルワークの歴史
3．各国の保健医療ソーシャルワーク
4．患者の人権と社会福祉
5．医療保健福祉の相談援助活動
　1）保健医療ソーシャルワーク業務指針
　2）倫理と価値
　3）相談援助活動の実際
　　①慢性疾患　②難病　③救急医療　④ターミナルケア　⑤小児医療　他
7．チーム医療と連携
8．医療施策の変遷と今日的課題
9．医療保障制度の概要

［成績評価の方法］

出席状況、レポート、学期末試験によって総合的に評価する。

［教科書］

講義時に適宜配布する。

［参考文献］

・保健医療の専門ソーシャルワーク研究会『保健医療の専門ソーシャルワーク』（中央法規出版）1996
・杉本照子監修『医療におけるソーシャルワークの展開 ― その原則と実践 ― 』（相川書房）2001
・大本和子他著『医療ソーシャルワーク実践50例』（川島書店）1999
・日本医療社会事業協会編『保健医療ソーシャルワーク原論 』（相川書房）2001

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉施設経営論（旧社会福祉施設運営論）		秋学期	2単位	坪　山　孝

［講義概要・学習目標］

今日の社会福祉施策はノーマリゼーション及び在宅生活の継続性などを目標にしている。これが社会福祉施設に地域化や多機能化の課題を与え、その経営に大きく影響している。
しかし現在でも施設の重要な役割は利用者に対するサービスにある。施設を利用する個人及び家族の自立を支える社会的装置という視点から施設の有用性を考え、経営主体の形態やサービス・人事・財務などの諸管理について講義し、総合的に施設の経営管理を学習する契機としたい。
また、高齢者の施設は介護保険制度に移行し、利用者本位のサービス提供を目標に自己選択・リスクマネジメント・苦情対応・第３者評価などの新しい仕組みを導入する責任があるので、これらについても講義する。

［講義計画］

1　社会福祉施設の沿革
2　社会福祉施設の体系と制度
3　社会福祉施設の経営と社会福祉法人制度
4　利用者のニーズとサービス管理（食事・入浴・排泄・移動介助等）
5　社会福祉施設と組織・人事管理
6　社会福祉施設と地域社会（地域化の課題）
7　社会福祉施設と従事者
8　社会福祉施設の建物、設備　（複数居室・ユニットケア）
9　社会福祉施設と介護保険制度
　（苦情解決・第３者評価・身体拘束・リスクマネジメント等）

［成績評価の方法］

学期末試験による

［教科書］

用いない

［参考文献］

随時、授業中に紹介する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
社会福祉計画論		8・12月集中	4単位	松原　一郎

［講義概要・学習目標］

社会福祉施策を具体的・合理的に進めていくための方法として社会福祉計画がある。それは、社会変動や公的セクターの働きや政策と不可分の関係にある。
社会福祉計画の基礎概念や類型を学びながら、個別分野の計画 ── 介護保険、障害者プラン、エンゼルプラン・地域福祉計画 ── についても学生諸君の発表にあわせて論及していく。

［講義計画］

レクチャーとディスカッションで2コマを形成する。
前半　①社会変動と社会福祉制度
　　②社会福祉計画とは何か：基礎概念、構成要素
　　③公的計画と民間計画
後半　④計画の個別具体的事例：高齢者、障害者、児童、地域福祉等
　　⑤まとめ：ニーズ、計画と参画、評価

［成績評価の方法］

平常試験による。（レポート・発表を含む）

［教科書］

事務室にて資料のパッケージを配布

［参考文献］

『社会福祉計画』 定藤・坂田・小林共編、有斐閣、1996
『厚生労働白書』当該年度版

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
リハビリテーション論		秋学期	2単位	奥田邦晴

［講義概要・学習目標］

障害者が豊かな生活を営んでいく上で、リハビリテーションから自立生活への円滑な連携が非常に重要である。そのためには、リハビリテーションは、適切な時期に実施されまた、必要最小限に時間を限定したものでなくてはならない。ノーマライゼーション社会の構築を目標に、このリハビリテーションを包括的な視点からとらえ、保健-医療-福祉の一体化を押し進めていくことを目標とする。
なお、リハビリテーション論を学ぶ上で障害についての理解を深めることは非常に重要である。代表的な疾患を取り上げ、それぞれの障害やリハビリテーションアプローチについて解説する。

［講義計画］

1.リハビリテーション総論
2.障害と評価（脊髄損傷、脳卒中、脳性麻痺その他）
3.各種専門職種
4.疾患・病態からみたリハビリテーションの実際
5.補装具
6.リハビリテーション工学
7.障害者のスポーツ
8.地域ケア
9.その他

［成績評価の方法］

筆記試験

［教科書］

特に定めない

［参考文献］

「入門リハビリテーション概論」 中村隆一　医歯薬出版株式会社
「リハビリテーション論」 福祉士養成講座編集委員会　中央法規
「リハビリテーションの理論と実際」 上田　敏　ミネルヴァ書房
「リハビリテーションを考える」　上田　敏　障害者問題双書
「リハビリテーション概論」　砂原茂一　医歯薬出版株式会社

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
人間発達論 （旧人格発達論）		春学期集中	4単位	岡井哲明

［講義概要・学習目標］

平穏に感じる日々と世相を賑わす驚きの出来事とが繰り返されるが、私達には、かつて受けた大きな衝撃さえも小さく感じることも多くなっている。自分の受ける感覚や感情が変化しているからである。

身の回りの出来事に深くコミットしないことも自我の傷つきを防ぐ意味では大事な機能であるが、一方、出来事のもつ自分とっての意味や深みを感じとる機会を失しているとも言える。悩むのは無論辛いが、悩む力があることはそれだけ自己の理解へとと向かう大きな可能性をもつとも言えるだろう。

人の心は単純でなく多様な機能をもっている。本講義では、パーソナリティー理論の中でも、無意識の概念を導入し、人間を無意識を含めた自律的な機能の総体として捉える「精神分析療法」を中心に、主要な各理論との比較を通じて、深みのある人間の発達を概観する。

必要に応じて事例や社会現象等を交え、人間の心に対する理解を深め、悩める人への援助についても触れる。受講者自身が今まで以上に、自分について、また、人に対する関心を増し、今後の子育てや将来就くであろう対人援助の仕事に役立てる契機となればと考えている。

［講義計画］

1) 序論～パーソナリティーとは何か
　各種理論の紹介とその視点の整理

2) 心の構造～精神分析の基礎理論
　ﾌﾛｲﾄﾞの精神分析理論を中心に～自我の働き、深層心理学的な力動
　cf. ﾕﾝｸﾞの分析心理学

3) 乳幼児のこころの世界～乳幼児研究・乳幼児精神分析
　児童分析（ｱﾝﾅﾌﾛｲﾄﾞ・ﾒﾗﾆｰ・ｸﾗｲﾝ）から対象関係論（D. W. ｳｨﾆｺｯﾄ）まで
　（内的対象関係から見た子育ての実際）

4) ライフサイクルから見た心理社会的発達について（E. H. ｴﾘｸｿﾝ）
　自我同一性、グランドプラン、ライフサイクル

［成績評価の方法］

学年末試験（論述）の成績を最終的な評価とする。その他レポート有。

［教科書］

特に指定はしない。

［参考文献］

随時，講義の中で参考図書については紹介する。

福祉 02～

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉施設サービス論（旧社会福祉施設処遇論）		秋学期集中	4単位	松端克文

［講義概要・学習目標］

本講は社会福祉施設でのサービス論（支援論）である。今日わが国の社会福祉従事者は 130 万人を超えているが、そのうち100万人が福祉施設の従事者である。本学の卒業生の就職先も大半が社会福祉施設である。

しかし、社会福祉施設での援助論、あるいはサービス論として体系化された理論や方法はほとんどない。社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論や方法は学んでも、そのことが施設での実践にそのままで活かせるわけではない。そこで本講では、社会福祉施設をソーシャルワークを統合的に実践する場として積極的に位置づけることができるよう試みたい。

そのためには、エンパワーメントの観点を重視した個々の利用者と向き合うなかで求められる個別援助技術の観点からの専門性と、地域での自立生活を支援するうえで、地域と向き合うなかで求められる「コミュニティソーシャルワーク」の観点からの専門性とを、実践のなかで統合していかなければならない。こうした観点から施設サービス論の構築に努めたい。

なお、本稿では児童、高齢、障害といった分野を超えた観点からのアプローチを前提とはするが、実践レベルにおける「脱施設化」という課題を扱う場合など、特に障害者施設に焦点をあてる場合もある。

［講義計画］

1．社会福祉改革の動向と社会福祉施設
2．社会福祉施設の歴史
3．社会福祉施設の制度体系
4．社会福祉施設サービス・運営の現状把握
5．社会福祉施設のサービス評価
6．社会福祉施設におけるソーシャルワーク実践―個別援助技術の観点から―
7．社会福祉施設における地域生活支援―コミュニティソーシャルワークの観点から―
8．社会福祉施設における苦情解決の仕組み、オンブズマンの活動

［成績評価の方法］

出席、レポート、学年末試験による

［教科書］

松端克文『個別支援計画の考え方と書き方』日総研出版、2004.
その他、適宜プリント配布

［参考文献］

松端克文他編集『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房、2004

その他、授業時に紹介する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
介護概論	01 02	春学期 春学期	2単位 2単位	佐瀬　美恵子 松井　妙子

[講義概要・学習目標]

1.介護の役割を理解するとともに、看護・医療との関係について理解する。
2.具体的な介助方法の実際について演習形式で学ぶ。
3.高齢者の身体的および精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に対処できる能力を養う。

[講義計画]

1. オリエンテーション
2. 介護の機能および範囲
3. 加齢に伴う心身の変化
4. 高齢者体験・車椅子体験などの演習
5. 介護専門職と保健・医療専門職との連携
6. 介護技法　1) 身体の自然な動き
   2) 食事
   3) 排泄
   4) 移動
7. コミュニケーション技法
8. 痴呆高齢者の理解と介護
9. ターミナルケア

[成績評価の方法]

主席状況とレポートの内容から総合的に評価する

[教科書]

新版社会福祉士養成講座 14　介護概論（中央法規）

[参考文献]

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
介護演習（旧介護実習）	01 02	8月集中 8月集中	2単位 2単位	佐瀬　美恵子 伊達　京子

[演習概要・学習目標]

介護概論を受けて、介護の理論と技術を実践的に展開する方法について学習する。加齢や心身の障害をもちながら、どのようにすれば今ある能力を最大限に活かした日常生活を送ることを援助できるか、尊厳や個別性を尊重した援助を行うことができるか、予防的な視点をもって援助を行うことができるか、さらには生涯にわたって成長・発達し続ける存在としての人をどのように援助できるか、具体的事例を用いて学びあう。

[演習計画]

介護を必要とする人々への援助に必要な技術・方法について考える。小グループに分かれ、事例を用いて具体的な援助について検討し、理解を深める。

1．介護を必要とする人々のアセスメント

2．ケアプランについて
　施設におけるケアプラン
　在宅生活を支えるケアプラン

3．具体的な援助方法について

4．評価

[成績評価の方法]

レポートと平常点（出席率および演習への参加状況）などを総合して評価する。

[教科書]

社会福祉士養成講座　14 介護概論　中央法規

[参考文献]

・小宮　英美著「痴呆性高齢者ケアーグループホームで立ち直る人々ー」中公新書
・講義の中で適宜紹介する

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
臨床心理学		通期	4単位	川口茂雄

[講義概要・学習目標]

今日、「もの」が豊かになるにつれて、「こころ」の重要性がしだいに認識されるようになっている。このような時代にあって、臨床心理学は、医療、福祉、教育、司法、産業、地域社会などの各臨床現場で、「こころ」の問題や葛藤で悩み苦しんでいる人々を、心理学的な知識や技法を用いて援助してゆく、極めて実践的な学問である。

本講座では、先ず臨床心理学発展の歴史を振り返りながら、その独自性、特色を明らかにした上、基礎的な人格理論や対象となる各発達段階での課題と病理を時間を割いて学習させる。さらに心理臨床の実践現場での人格理解の方法（面接、各種心理検査）及び心理療法の幾つかの技法を習得させる。講義の中では、事例や時事的問題の説明、心理テストの実施、ビデオの試聴などをとおして、「実践の学」である臨床心理学の理解を深めさせる。

[講義計画]

1　臨床心理学とは何か
　(1)　定義と方法
　(2)　発展の歴史
2　精神力動理論の基礎
　(1)　フロイトとユング
　(2)　自我防衛機制
3　パーソナリティの発達と病理
　(1)　各発達段階の課題
　(2)　心身の不適応と行動障害
4　心理アセスメントの技法
　(1)　面接と行動観察
　(2)　心理検査法
5　様々な心理療法

[成績評価の方法]

レポート提出及び期末試験の成績等によって総合的に評価する。

[参考文献]

森谷寛之編「はじめての臨床心理学」北樹出版
弘中正美他編「子どもの心理臨床」学文社
村尾泰弘著「家族臨床心理学の基礎」北樹出版

[教科書]

特に指定しない。

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
カウンセリング		春学期	2単位	川口茂雄

[講義概要・学習目標]

現代は不安の時代と言われている。人びとは、厳しい社会状況の中で、孤独と強いストレスにさらされ、家庭、学校、職場などでの人間関係で悩み苦しんでいる。このような不適応状況にある人びと（クライエント）が、援助者（カウンセラー）とのコミュニケーションによって、人間関係の改善や自己実現を図ってゆく心理学的面接をカウンセリングと呼んでいる。

本講座では、カウンセラーはどのような態度や技法でもってクライエントとかかるのか、カウンセリングはどのように展開してゆくのか、カウンセリング過程で生ずる諸問題をどのように解決するのかなど、ケースワークとは異なるカウンセリングの実際を理解させる。

講座の前半ではカウンセリングの基礎的理論、技法、進め方などビデオやテープの視聴を交えながら学習させた上、後半ではロールプレイによる体験学習を実施して、その実際を具体的に習得させる。

[講義計画]

1　カウンセリングとは何か
2　カウンセリングの理論
3　カウンセラーの基本的態度
4　カウンセラーの聴く技法
5　カウンセリングにおける初回面接の進め方
6　カウンセリングの展開と終結
8　カウンセリング過程で生じる諸問題
9　ロールプレイによる体験学習

[成績評価の方法]

レポート・感想文の提出、実技、出席状況等を総合的に評価する。

[参考文献]

河合隼雄著「カウンセリングの実際問題」誠信書房
澤田瑞也他編「キーワードで学ぶカウンセリング」世界思想社
東山紘久著「プロカウンセラーの聞く技術」創元社

[教科書]

特に指定しない。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
レクリエーションワーク （旧レクリエーションワーク）		秋学期集中	4 単位	横　見　靖　子

［講義概要・学習目標］

キャンプや福祉施設でのレクリエーション活動援助を素材に、高齢者・障害者・児童などの福祉対象者へのレクリエーション活動援助の理論と技術を身につける。
福祉現場に出た時、役立つ人材になれるように、教室内の授業では受身の授業で終わらず、自発的に考察し、体で覚える授業を目指す。学外授業にも積極的に参加してほしい。

［講義計画］

① オリエンテーション・アイスブレーク
② 福祉におけるレクリエーションの現状と課題
③ 福祉レクリエーションの歴史及び法体系と行政施策
④ 福祉レクリエーション活動援助の考え方（個人・集団・社会へのアプローチ）
⑤ 福祉レクリエーション活動援助プロセス
⑥ 援助者に必要なカウンセリング・コミュニケーション技法
⑦ 季節の旬を調べる
⑧ レクリエーション財のアレンジ
⑨ レクリエーションとセラピー
⑩ レクリエーション活動を安全に行うために
⑪ 事例検討
⑫ 学外授業：野外活動・セミナー・ボランティア活動など

［成績評価の方法］

平常点（出席・受講態度）とレポート（ノート）

［教科書］

「高齢者のレクリエーション指導Ⅱディセンターのプログラム」
（朝日新聞厚生文化事業団）
「新しい高齢者のレクリエーション」（大阪YMCA）
「アイスブレーク」（エルピス社）

［参考文献］

「福祉レクリエーション総論」（中央法規）
「レクリエーションの基礎理論」（杏林書院）
「いきいき高齢者キャンプ」（朱鷺書房）
「痴呆性老人キャンプ」（朱鷺書房）
「高齢者レクリエーション指導の手引き」（朝日新聞厚生文化事業団）
「CAMPING FOR ALL」（エルピス社）

福祉 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
野外レクリエーション実習		春学期	2単位	石　田　易　司

［講義概要・学習目標］

組織キャンプを素材に、障害者、高齢者、児童などの福祉対象者への野外活動指導の理論と技術を身につける。
施設などの福祉現場に出た時に役に立つ人材になれるよう、教室内での受け身の授業で終わらず、積極的に野外に出て、安全やプログラム運営技術、グループワークの体験ができるよう、実習も行う。

［講義計画］

①福祉におけるレクリエーションの現状と課題
②組織キャンプの理解
③キャンプの対象とプログラム
④個々のプログラムの運営と指導
⑤キャンプ実習
⑥救急法実習
⑦キャンプと福祉対象者
⑧記録と評価

［成績評価の方法］

出席点と期末のレポート

［教科書］

「CAMPING FOR ALL」（エルピス社）

［参考文献］

「いきいき高齢者キャンプ」（朱鷺書房）
「高齢者レクリエーション指導の手引き」（朝日新聞厚生文化事業団）
「痴呆性老人とキャンプ」（朱鷺書房）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
福祉事情研究		通期	4単位	梓　川　一

［講義概要・学習目標］

1.「生きること」を考えあうことをテーマとして、そこから社会について幅広く考察・検証する。社会福祉の援助の視点を重視して講義を進める。

2. 授業形式は、ディスカッション、ディベート、ロールプレイなどを通じて進めていく。

［講義計画］
1. 徘徊老人の事例（生活史の検討）
2. 沈黙について（コミュニケーションの重要性）
3. 障害をもつことの意味（自立を考える）
4. 社会福祉の理論の検討
5. 偏見と差別
6. 社会の事件の検証（虐待や殺人など）
7. 障害者と性
8. 人生における経験の意味（含：恋愛や人生）
9. 語りの意味（語りと傾聴の考察）
10. 貧困と生活
11. 死をみすえたケアの意味（死の準備教育に向けて）
12. 遊びの意味（仕事と遊び）
13. 価値と意味についての検討

［成績評価の方法］
1. 積極的・主体的な参加姿勢
2. 講義中のレポート
3. レポート（テーマは講義中に発表する）
4. 上記の総合評価（ただし、1は大前提とする）

［参考文献］

［教科書］

なし

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
社会福祉特講（新しい福祉課題）		秋学期	2単位	松　端　克　文

［講義概要・学習目標］

本特講は読売新聞社によって提供される。
２０００年には介護保険制度が始まり、社会福祉法が成立した。そして、２００３年から支援費制度が開始され、わが国の社会福祉基礎構造は大きく変化する。この制度変革の意義は今後の検証に待たねばならないが、豊かな社会といわれるなかで、今日までの福祉問題に加えて、児童や高齢者に対する虐待、介護事故、無年金者やホームレス等の新しい福祉課題が拡大している。
本特講では読売新聞社の現場記者（社会部・生活情報部・科学部他に所属する）が綿密に取材した事象を切り口にして社会保障、社会福祉を分析し、現在の社会が抱える前述した新しい福祉課題について講義する。
主なキーワードは「年金・医療・福祉・児童・女性・貧困」等の社会福祉の各領域にわたるが、これらを多角的にわかりやすく講義し、豊かな社会の新しい福祉課題の特質を明らかにする。
将来、社会福祉分野の仕事に就こうとする学生諸君が「社会の現実」から社会福祉を研究する契機となることを目的として提供されるので、期待して受講してほしい。

［講義計画］

1　年金
2　健康・医療
3　児童の問題（虐待・不登校などの子育て）
4　高齢者の問題（虐待・介護・財産管理など）
5　女性の問題
6　貧困問題

なお、講義計画については、講義初日により詳細な内容を提示する。

［成績評価の方法］

レポートと学期末試験による

［参考文献］

随時、授業中に紹介する

［教科書］
用いない

《インテグレーション科目》

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
社会福祉特講　（職業を考える）		春学期	2単位	石田易司

［講義概要・学習目標］

社会福祉学科卒業後、職業人として活動する場としての社会福祉施設、社会福祉機関、ＮＰＯなどの現場で働く人の話を聞き、自身の職業観を身につけると共に、大学生活で学ぶ目的を明確にする。

［講義計画］

1．大学生活と就職
2．福祉職場の概要
3．高齢者・障害者・児童施設　1
4．　2
5．　3
6．地域福祉の現場　1
7．　2
8．ＮＰＯ／ＮＧＯ
9．社会福祉機関・行政
10．精神保健福祉現場
11．病院
12．職業観と大学で学ぶこと

［成績評価の方法］

出席とレポート

［教科書］

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担当者
社会福祉特講　（サービス・ラーニング）		秋学期	2単位	伊藤高章

［講義概要・学習目標］

地域的・国際的なボランティア活動に参加することが、援助対象者のエンパワメントに貢献すると同時に、援助者自身の計画的な学びになるプロセスを保証するためには、綿密な学習プログラム、現場でのスーパーヴィジョン、改善に向けての適確な評価、などが大切である。このクラスでは、各自の具体的なボランティア活動への取り組みをとりあげ、その中でこれらのプロセスが実現する方策を検討する。

履修希望者は、既にボランティア活動に携わっているか、もしくはこの講義をとおして活動への取り組みを具体化する意志があることが期待される。

［講義計画］

以下のテーマを含む

サービス・ラーニングの概念とメカニズム
学習計画
スパーヴィジョン
評価基準と評価方法

［成績評価の方法］

平常点

［教科書］

なし

［参考文献］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
商業簿記	01 02 03 04	春学期集中 春学期集中 春学期集中 春学期集中	4単位 4単位 4単位 4単位	金光 明雄 清水 信匡 河合 隆治 朴 大栄

［講義概要・学習目標］

■目標　平成16年度第107回日商簿記検定試験３級合格

■講義概要　今日の経済社会の発展は、簿記の利用なくしては不可能であったと断言しても過言ではありません。この意味で、簿記はたんに会計学のみならず、経営学、経済学、その他の基礎としても必要不可欠な学習科目の一つです。

３級商業簿記は、個人商店を前提として複式簿記による記帳（仕訳・勘定記入）の基礎および簿記一巡の処理の流れを学習していきます。期中処理では、商品売買に係る小切手、手形の取扱いおよびその他の記帳処理が重要な学習内容であり、決算においては、商品売買、受取手形・売掛金、固定資産の決算整理が重要項目となります。また、決算整理後の報告書（損益計算書、貸借対照表）の作成も重要な学習内容です。

［講義計画］

① 簿記の目的・取引・仕訳
② 勘定口座への記入方法・試算表・商品売買の記帳方法・引取運賃及び発送費の記帳方法・手付金の記帳方法
③ 現金及び預金の記帳方法・手形の記帳方法（決済まで）
④ 手形の記帳方法（裏書譲渡から）・その他の勘定の記帳方法（有価証券・債権債務・収益・費用）
⑤ その他の勘定の記帳方法（訂正仕訳）・主要簿及び補助簿（小口現金出納帳まで）
⑥ 主要簿及び補助簿（受取手形記入帳から）・伝票
⑦ 決算・決算整理（売上原価の計算）・英米式決算法
⑧ 精算表・その他の決算整理（貸倒れ・減価償却）
⑨ その他の決算整理（有形固定資産の売却・繰延べ・見越し・消耗品費と消耗品）
⑩ その他の決算整理（現金過不足・現金・売買目的有価証券・引出金）
⑪ 直前対策総まとめ講義（予定）
⑫ 直前対策答練Ⅰ
⑬ 直前対策答練Ⅱ
⑭ 公開模擬試験

［成績評価の方法］

日商簿記検定試験３級合格を原則とし、その他、出席点、毎回の小テスト、答案練習、模擬試験なども加味して評価します。

［参考文献］

必要があれば、適宜指示します。

［教科書］

大原簿記学校オリジナル教材
① ALFA３級商業簿記テキスト
② ALFA３級商業簿記ドリル
③ ALFA３級商業簿記アンサー

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
商業簿記 （旧簿記Ⅰ）	05 07	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	河合 隆治

［講義概要・学習目標］

簿記は、企業の財務状態や経営状況を知る上で不可欠な知識であり、会計学を理解するための基礎に相当します。例えば、企業が倒産するかどうかやどれほどの借金を抱えているかについては財務諸表と呼ばれる書類に記載されていますが、これは簿記の知識がないと正確に読み取ることができません。

この講義では、ほとんどの企業で用いられている複式簿記について、その基本構造を理解し、記帳技術を習得することを目標とします。ここで複式簿記とは、企業が行う商品売買などの取引を二面的に把握・記録するための体系的な技術を指します。

具体的には、企業活動に伴う取引の記帳からはじまり財務諸表の作成にいたるまでを、①複式簿記の基礎概念、②諸取引の会計処理、③決算と財務諸表、の順に講義を進めていきます。また、講義の理解を深めるために、計算演習を多く取り入れる予定です。

この講義を終えることによって、日商簿記検定３級程度の簿記の知識を得ることができ、財務諸表論、会計学原理、株式会社会計、原価計算システム、管理会計論、税務会計、監査論、経営分析といった科目を受けるための基礎が形成されます。

［講義計画］

1．複式簿記の基礎
(1)簿記の基礎概念
(2)資産・負債・資本と貸借対照表
(3)収益・費用と損益計算書
(4)簿記上の取引
(5)仕訳と勘定記入
(6)仕訳帳と総勘定元帳
(7)試算表の作成（その1）
(8)元帳の締切りと財務諸表の作成
(9)精算表の作成（その1）

2．取引の処理
(10)現金と預金
(11)商品売買
(12)売掛金・買掛金
(13)その他の債権・債務
(14)手形（その1）
(15)手形（その2）
(16)有価証券
(17)固定資産の取得・売却と減価償却
(18)資本金
(19)収益と費用の見越し・繰延べ
(20)試算表の作成（その2）
(21)決算整理手続
(22)精算表の作成（その2）

［成績評価の方法］

期末試験で評価します。

［参考文献］

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）『現代簿記論』中央経済社，1992年。
その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で指示します。

［教科書］

加古宜士・渡部裕亘（編著）『新検定　簿記ワークブック3級　商業簿記』中央経済社，2003年。
その他、適宜レジュメを配布します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
商業簿記 （旧簿記Ⅰ）	06 08	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	金　光　明　雄

［講義概要・学習目標］

簿記は、企業の財務状態や経営状況を知る上で不可欠な知識であり、会計学を理解するための基礎に相当します。例えば、企業が倒産するかどうかやどれほどの借金を抱えているかについては財務諸表と呼ばれる書類に記載されていますが、これは簿記の知識がないと正確に読み取ることができません。

この講義では、ほとんどの企業で用いられている複式簿記について、その基本構造を理解し、記帳技術を習得することを目標とします。ここで複式簿記とは、企業が行う商品売買などの取引を二面的に把握・記録するための体系的な技術を指します。

具体的には、企業活動に伴う取引の記帳からはじまり財務諸表の作成にいたるまでを、①複式簿記の基礎概念、②諸取引の会計処理、③決算と財務諸表、の順に講義を進めていきます。また、講義の理解を深めるために、計算演習を多く取り入れる予定です。

この講義を終えることによって、日商簿記検定３級程度の簿記の知識を得ることができ、財務諸表論、会計学原理、株式会社会計、原価計算システム、管理会計論、税務会計、監査論、経営分析といった科目を受けるための基礎が形成されます。

［講義計画］

1．複式簿記の基礎
(1)簿記の基礎概念
(2)資産・負債・資本と貸借対照表
(3)収益・費用と損益計算書
(4)簿記上の取引
(5)仕訳と勘定記入
(6)仕訳帳と総勘定元帳
(7)試算表の作成（その1）
(8)元帳の締切りと財務諸表の作成
(9)精算表の作成（その1）

2．取引の処理
(10)現金と預金
(11)商品売買
(12)売掛金・買掛金
(13)その他の債権・債務
(14)手形（その1）
(15)手形（その2）
(16)有価証券
(17)固定資産の取得・売却と減価償却
(18)資本金
(19)収益と費用の見越し・繰延べ
(20)試算表の作成（その2）
(21)決算整理手続
(22)精算表の作成（その2）

［成績評価の方法］

期末試験で評価します。

［教科書］

加古宜士・渡部裕亘（編著）『新検定　簿記ワークブック3級　商業簿記』中央経済社，2003年。
その他，適宜レジュメを配布します。

［参考文献］

中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）『現代簿記論』中央経済社，1992年。
その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
大学生活入門セミナー	０１	春学期	2単位	野　田　俊　範

［演習概要・学習目標］

このクラスは、編入学生諸君を対象として開講されるものです。本セミナーでは、編入学生諸君が桃山学院大学を理解し、これに慣れ親しむことを目標とします。具体的には、大学の施設を有効に利用できるようになること、および、講義やゼミで経営学に関する専門的な学習や研究を進めるための基礎的な力を身につけることを、主要な目的とします。

〈学習目標〉
1．編入学生にとって必要な基礎的学習テクニック（レポートやレジュメの作成、演習での発表の仕方など）を習得する。
1．経営学に関する文献を熟読し、その要約を作成する。
2．経営学に関する基礎的な知識を身につける。

＊全回出席を原則とします。

［演習計画］

第１回　演習の概略説明と自己紹介
第２回　図書館オリエンテーション
第３回　情報センターオリエンテーション
第４回　新聞記事の要約(1)
第５回　新聞記事の要約(2)
第６回　専門的な文献の要約(1)
第７回　専門的な文献の要約(2)
第８回　専門的な文献の要約(3)
第９回　プレゼンテーションについて
第10回　小発表会(1)
第11回　小発表会(2)
第12回　小発表会(3)／本演習のまとめ

＊演習の順序を入れ替える場合があります。
また、演習生との相談により内容を変更する場合があります。

［成績評価の方法］
出席状況、演習への参加・関与の状況、宿題やレポートの状況などにより総合的に評価します。

［教科書］
適宜指示します。

［参考文献］
大野　晋『日本語練習帳』岩波新書、1999年。
小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2002年。
その他、必要に応じ適宜指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
大学生活入門セミナー	０２	春学期	２単位	野　原　康　弘

［講義概要・学習目標］

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には，大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強するための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の４つの基礎的スキルを向上させながら，大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

＜学習目標＞

1　講義におけるノートの取り方を学ぶ
2　レジュメの作り方を学ぶ
3　発表・報告・討論の仕方を学ぶ

＊全回出席を原則とする。

［講義計画］ この授業は留学生のためのものです。

この授業では、『潰れない会社にするための 12 講義』を教科書にして、
留学生の苦手とする「読む」ことの訓練をしながら

1．読んで簡単にまとめる
2．簡単なレポートに仕上げる
3．それを発表する
4．発表について討論する
5．討論後、完全なレポートに仕上げ、提出する
6．教科書に出てくるビジネス関係の用語を調べる（毎回）
7．それらを発表する
8．ノートの取り方を学ぶ
9．研究の仕方を学ぶ

などを勉強していく。

［成績評価の方法］

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

［参考文献］

適宜指示する

［教科書］

『潰れない会社にするための 12 講義』　吉岡憲章　　中公新書

経営 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
大学生活入門セミナー	０３～１９	春学期	２単位	クラス・担当者については、目次で確認してください。

［ 講義概要・学習目標 ］

「大学に入ったけれど、講義で先生の言うことがわからない。教科書を読んでもわからない。課題が書けない。何か大学に行きづらい。」

このようなことがないように、大学生活入門セミナーでは、桃山学院大学を理解することと慣れ親しむことを目的とします。具体的には，大学の施設を有効に利用できること、講義やゼミで効果的な勉強するための基礎力をつけること、このセミナーを通じて友達の輪を作ることを目的とします。特に、「読む」，「書く」，「聞く」，「話す」の４つの基礎的スキルを向上させながら，大学の雰囲気やまわりの人たちにも慣れていくようにすることを狙っています。

＜学習目標＞

1　講義におけるノートの取り方を学ぶ
2　レジュメの作り方を学ぶ
3　発表・報告・討論の仕方を学ぶ

＊全回出席を原則とする。

［ 授業計画 ］（第１回でさらに詳しい説明があります。）

第１回　授業の概略説明と自己紹介
第２回　図書館　オリエンテーション
第３回　情報センター　オリエンテーション
第４回　ノートの作り方（ミニ講義）(1)
第５回　ノートの作り方（ミニ講義）(2)
第６回　ノートの作り方（ミニ講義）(3)
第７回　大学生活及び入門セミナーについての意見交換
第８回　報告の仕方（文献講読と発表）(1)
第９回　報告の仕方（文献講読と発表）(2)
第10回　討論 (1)
第11回　討論 (2)
第12回　本授業の反省会とカリキュラムの説明

＊授業順序を入れ替える場合があります。

［ 成績評価の方法 ］

レポート等の提出とその内容、授業中の態度等

［ 参考文献 ］

適宜指示する

［ 教科書 ］

適宜指示する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学基礎	01 02 03 04	秋学期 秋学期 秋学期 秋学期	2単位 2単位 2単位 2単位	片岡　信之 片岡　信之 鈴木　幾多郎 鈴木　幾多郎

［講義概要・学習目標］

経営学では、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要項にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。
そこでこの講義では、経営学部で開設している諸科目のうち経営学・商学関係科目の主な内容を、かいつまんで易しく解説し、それぞれの科目について大まかなイメージが持てるようにします。それとともに、経営学部でどのような勉強をしていけば将来どのような職業に就くのに有利になるのか、また、ある特定の職業に就くためにはどのような科目をとって系統的に勉強していけばよいか、という点についても、ガイドします。
この講義を履修し終わった人が、1年後期（第2セメスター）から自覚を持って、みずからの判断で積極的なキャリア形成（将来めざす仕事に向けた能力・経歴形成）に進んでいけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標です。

［成績評価の方法］

①期末テストの結果によるほか、
②講義ノートチェック（出席してしっかりノートを取っているかどうかを、期末にノート提出によってチェックします）、
③講義中に随時指示する提出レポートがきちんと書けているかどうか、
などによる総合評価とします。
概ね期末テスト結果5割、その他5割の比重で評価をします。

［教科書］

最初の時間にテキストを配付します。

［講義計画］

配付資料に従って、概ねその順に講義を進めます。講義には必ず出て、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけてください。

1. 経営学、商学とはどんな学問か―全体的見取り図（経営学総論、経営学史、経営史、商学の主内容）
2. 会社の仕組みはどのようになっているのかについての知識を学ぶ―企業論
3. 会社を運営するにあたって知っておかねばならない知識を学ぶ―経営管理論
4. ヒトをどのように雇い・使うか、会社と従業員がともにハッピーになるにはどのようにしたらよいかについての知識を学ぶ―経営労務論
5. 会社ではどのようにしてモノを作っているかについての知識を学ぶ―生産管理論
6. 商品流通の仕組みと販売に関する一切の知識を学ぶ―流通論、マーケティング論
7. お金をどう集め・運用するかについての知識を学ぶ―経営財務論
8. 金融制度・保険制度・証券市場の仕組みと銀行業・保険業・証券業についての知識を学ぶ―銀行論、保険論、証券論
9. 国際化時代の会社はどう変わってきているかについての知識を学ぶ―国際経営論、異文化間コミュニケーション論
10. 中小企業の直面する問題と起業家についての知識を学ぶ―中小企業論
11. 組織の個性・品性・文化と社会的責任のあり方についての知識を学ぶ―組織倫理学
12. 大学院レベルの高度な授業に挑戦しよう―環太平洋圏経営研究、日本経営論研究
13. 現代版の読み・書き・そろばんの武器を身につけよう―実務英語、情報諸科目、情報収集能力、リーダーシップ能力、戦略作成能力
14. 就職対策・キャリア形成は入学時から始まっている―経営学部卒が有利な職業の紹介、学科目履修との関係づけ、就職課職員の話を聴く
15. 自分のライフプランと今後の学習計画を立ててみよう

［参考文献］

●特に指定はしませんが、ポーダブルな（携帯できる小さな）経営学関係の辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、常日頃から隙間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営情報基礎	01 02 03 04	秋学期 秋学期 秋学期 秋学期	2単位 2単位 2単位 2単位	深谷　清之 深谷　清之 村山　博 村山　博

［講義概要・学習目標］

経営学部における経営情報関連の講義は，以下の４つである。
・"情報技術"について学習する「経営情報技術論」
・"情報システム"について学習する「経営情報システム論」
・"情報化と組織"について学習する「情報化組織論」
・"情報利用と計画"について学習する「経営工学」

この講義は，上の４つの講義のイントロダクションとして位置づけられる。それぞれの基礎的内容を学習する。また，上記の内容に加え、４つの講義を理解するために最低限必要な数学の基礎も学習する。
この講義の目的は，経営管理や組織運営にとって、情報、コンピュータ・システム、ＩＴ（情報技術）、モデル化の技術が不可欠であることを認識してもらい、より広くは、さまざまな意思決定の局面において、論理的思考、ないしはシステム思考が、大きな助けとなることを理解してもらうことである。

［講義計画］

①オリエンテーション
②数学基礎
③「経営情報技術論」の基礎
④「経営情報システム論」の基礎
⑤「情報化組織論」の基礎
⑥「経営工学」の基礎
⑦まとめ

［成績評価の方法］

期末試験

［教科書］

プリント配付

［参考文献］

必要に応じて指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
会計学基礎	０１ ０２ ０３ ０４	秋学期 秋学期 秋学期 秋学期	２単位 ２単位 ２単位 ２単位	清　水　信　匡 清　水　信　匡 清　水　信　匡 清　水　信　匡

［講義概要・学習目標］

〈講義概要〉
「会計」(accounting)は「企業の言語」(language of business)と言われる。日本人なら日本語で話をし、アメリカ人なら英語で話をするように、「企業人」(business person)は〈会計〉で話をしているというわけである。英語も知らないで、アメリカ社会で高い報酬は期待できない。同じように、会計を知らずして、経済社会での成功(出世)もおぼつかない。本講義は、企業の言語の基本的な会話法を伝授する。

〈学習目標〉
企業の言語の基本的な会話力を身につけるため、以下を学習目標とする。
①資産・負債・資本・利益・資金など、財務諸概念の意味を理解する。
②企業から提供される財務情報に込められた、数字の意味を読み取る。
③企業により提供される財務情報について、その実践的な利用法を学ぶ。
④経営学部専門科目の履修に際し、必須の基礎知識を修得する。

［講義計画］

テキストの目次は次の通りであるが、進行状況を勘案して講義する。

第１章　会計とは？
第２章　基本的な会計情報とは？
第３章　決算書の情報を分析するには？
第４章　税金はどのように計算するのか？
第５章　コストと会計情報とはどのように結びつくのか？
第６章　経営管理に会計情報をどう役立てるのか？
第７章　財務諸表は本当か？
第８章　決算書の内容や様式はどのように決まるのか？
第９章　会計は職業とどう結びつくのか？

［成績評価の方法］

授業の出席状況、課題(宿題)の達成状況、および筆記試験の総合点で評価する。

［教科書］

中田信正・徐龍達・小林哲夫（共編著）
『 まなびの 入門会計学 』（中央経済社）

［参考文献］

参考資料は適宜配布します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
基礎演習	０１～１６	秋学期	２単位	クラス・担当者については、目次で確認してください。

［演習概要・学習目標］

１年生の「大学生活入門セミナー」では大学に慣れることを目的としながら，“読む・聞く・書く・話す”の基礎的な勉強をしました。
この「基礎演習」では、より専門性の高い題材をもとに，“読む・聞く・書く・話す”を勉強します。特に，“書く・話す”，すなわちプレゼンテーションに重点を置きます。自分の考えを相手にわかりやすく伝えることは，社会に出てからも大変重要な能力です。繰り返し、練習しましょう。

＜学習目標＞

1. 要約を書く
2. 自分の考えをわかりやすく話す

＊全回出席を原則とする

［演習計画］（第1回でさらに詳しい説明があります。）

第１回　授業の概略説明と自己紹介
第２回　読んで理解し、要約を書く (1)
第３回　読んで理解し、要約を書く (2)
第４回　読んで理解し、要約を書く (3)
第５回　聞いてメモを取り、要約を書く (1)
第６回　聞いてメモを取り、要約を書く (2)
第７回　聞いてメモを取り、要約を書く (3)
第８回　プレゼンテーションについて（ビデオ等）
第９回　わかりやすく表現する (1)
第10回　わかりやすく表現する (2)
第11回　わかりやすく表現する (3)
第12回　３年生からの「演習」への取り組み方

＊授業順序を入れ替える場合があります。

［成績評価の方法］

レポートなどの提出とその内容、授業中の態度など

［教科書］

適宜指示する

［参考文献］

適宜指示する

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学総論	01	春学期集中	4単位	野田俊範

［講義概要・学習目標］
本講義は、経営学を初めて学ぶ学生を主たる対象とする、いわば「経営学入門」である。本講義の主要な課題は、経営学の学問的な性格を明らかにすること、ならびに、その経営学が研究対象とする企業・経営の基本的原理を概説することである。
本講義は、以下のような学習目標をもっておこなわれる。
①経営学の全体像を体系的に把握すること。
②企業・経営の基本的原理を理解すること。
③現代社会において企業がもつ意義や課題について、各自が主体的に関心をもつこと。

［講義計画］
Ⅰ．経営学とは何か
　1．経営学の意義
　2．経営学の成立
　3．社会科学としての経営学
Ⅱ．企業とは何か
　1．企業の基本的特質
　2．企業の基本的形態
　3．株式会社の特質
　4．企業を支配するもの
Ⅲ．経営管理の基本問題
　1．経営管理の意義
　2．経営管理思想の展開
　3．経営組織の論理
　4．経営戦略の論理
Ⅳ．現代社会と企業経営
　1．現代社会における企業の意義と課題
　2．経営学の展望

［成績評価の方法］
学期末試験により評価する。

［参考文献］
奥田耕一編著『新時代の企業経営』同文舘、1998年。
万仲脩一／海道ノブチカ編著『利害関係の経営学』税務経理協会、1999年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

［教科書］
使用しない。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学総論	02	**秋学期集中**	**4単位**	**片岡　信之**

［講義概要・学習目標］
この講義は、皆さんが将来経営学の各論講義で詳しい話を聞く前に、経営学の全般について予め予備知識を持っていることがふさわしいという狙いから設けられています。
したがって、本講義の目標もその点におかれることなります。すなわち、経営学全体について、広く浅くサーベイするということです。しかも、出来るだけ、経営学という学問が面白いものだという感じを持って貰えるように、皆さんを動機づけ出来たらよいと思っています。
経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思っています。経営学の基礎知識をつけるのだという気持ちで臨んで下さい。
ノートを必ず取ってください。この講義の目的の一つは、今後4年間に話を聴いて要点を掴み、ノートに取るという訓練を1年生の初めから習慣づけてもらうことを兼ねています。したがって、学年末にはノートを提出してもらい評価点として加味します。

［講義計画］
テキストに従って、概ねその順に講義を進めます。
1．生活を支える企業
2．環境の変化と企業経営
3．現代の企業社会と経営学を学ぶ意義
4．企業は誰が経営し、動かしているのか
5．企業は何を目指して活動しているのか
6．企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるか
7．企業はどのようにして経営し、組織を作るのか
8．企業の組織はどのように動いているのか
9．企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか
10．企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか
11．企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか
12．企業はどのようにして人材を活用するのか
13．企業はどのようにして文化をはぐくむのか

［成績評価の方法］
①学年末テスト結果によるほか、②講義ノートチェック（出席してしっかりノートを取っているかどうか）、③講義中の小テストをきちんと書けているかどうか、などによる総合評価とします。
概ね学年末テスト結果7割、その他3割の比重で評価をします。

［参考文献］
特に指定はしませんが、ポーダブルな（携帯できる小さな）経営学辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、常日頃からすき間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。つぎの何れかが、値段も手頃で良いでしょう。
1. 吉田和夫・大橋昭一編『基本経営学辞典』同文館、2500円
2.片岡・齋藤・佐々木・高橋・渡辺編著『ベイシック経営学辞典』中央経済社2500円予定（2004年秋刊行予定）
3.二神恭一編『ビジネス・経営学辞典』中央経済社、3500円（改訂版準備中）
4. 経営学史学会編『経営学史事典』文眞堂、3000円

［教科書］
片岡信之・齋藤毅憲・高橋由明・渡辺峻『はじめて学ぶ人のための経営学』文眞堂、2500円

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営管理論	０１ ０２	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	村上　伸一

［講義概要・学習目標］

経営管理（マネジメント）論はアメリカ経営学の中心に位置し，１世紀余りの歴史をもっています。支配から，価値を創造する協働の適応的調整としてのマネジメントへの人々の意識のシフトは，自由や機会平等といった基本的人権を基盤とする近代市民社会の成立に由来すると考えられます。

経営管理の場は組織ですから，経営管理論と組織論とは一体的に発展を遂げています。現代社会は学校や病院など多様で膨大な組織から構成されていますが，本講義では，主に企業に焦点を絞ることにします。現代の日米を中心にビジネス事情と経営管理の実態を概観しながら，組織と管理に関する理論を学んでいきましょう。

主に基盤的理論を学習しますが，学習を通して，実践的有用性のみならず，知的な面白さも実感し，自ら学ぶ意思を固めていくこと，これが当面の目標となります。

［講義計画］

オリエンテーション
イントロダクション
第１講　経営管理と経営管理者
第２講　経営学と経営管理論
第３講　経営管理と経営管理学説：実務と学際的応用社会科学
第４講　近代経営管理論：意思決定論
第５講　経営組織論
第６講　戦略的経営管理論
第７講　価値創造の経営管理論
コンクルージョン

［成績評価の方法］

試験成績により評価します。ビデオや教科書利用のミニ・レポートを講義中に書いていただき，それを評価に加える可能性もありますので，毎回教科書を持参下さい。

［教科書］

村上伸一『価値創造の経営管理論（改訂三版）』
創成社，2003年。

［参考文献］

片岡信之『日本経営学史序説』文眞堂，1990年。
眞野　脩『組織経済の解明』文眞堂，1978年。
村田晴夫『管理の哲学』文眞堂，1984年。
図書館で読むことができます。その他，適宜紹介します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営学史		秋学期集中	4単位	野田俊範

［講義概要・学習目標］

経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問である。そしてその経営学は、ドイツ、アメリカ、および日本においてめざましい発展を遂げてきたのである。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響をうけてきたことは事実である。

本講義では、そのドイツ経営学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するするとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。その際、学説と、その学説の歴史的・社会的背景との関連を明らかにすることを重視する。いかなる学説も、それの社会的・経済的・文化的背景による制約から逃れることはできないからである。

ドイツ経営学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。

［講義計画］

Ⅰ．経営学史の方法
1. 経営学史研究の意義
2. 経営学史研究の課題

Ⅱ．ドイツ経営学の発展
1. 私経済学の成立
2. 経営経済学の確立
3. 経営経済学の展開
4. 転換期の経営経済学

Ⅲ．現代のドイツ経営学
1. ドイツ経営学の意義
2. ドイツ経営学の展望

（詳細な講義計画については、第1回目の講義において提示する。）

［成績評価の方法］

学期末試験により評価する。

［教科書］

使用しない。

［参考文献］

木谷勤／望田幸男編著『ドイツ近代史』ミネルヴァ書房、1992年。
海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社、1994年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
組織倫理学		春学期集中	4単位	村　田　晴　夫

［講義概要・学習目標］

現代は組織の時代と言われる。それは企業に代表される組織体が社会の主要な活動を担っていること、そして人々は組織に依って社会的な活動をし、生活していることを意味している。非営利組織の活動もまた重要である。組織を成立させ、維持し、発展させることが組織活動の主要なプロセスとなる。環境問題をはじめさまざまな問題が押し寄せるなかで、組織活動が発展するためには倫理の観点が重要となる。

本講義では、人間・組織・社会・自然を骨格として、組織の本質論から、歴史的視点を踏まえて解説する。

［講義計画］

以下のような内容で進める：

- 組織倫理学で何を学ぶか
- 組織論の発展とその歴史
- 経営と社会
- 組織と人間
- 企業倫理学
- 企業と環境

［成績評価の方法］

期末試験を中心とする。

［参考文献］

適宜指示する。

［教科書］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営史		春学期集中	4単位	長谷川　彰

［講義概要・学習目標］

「経営史学」という学問は、比較的新しい領域に属する学問分野である。近年におけるこの分野の発展には目を見張るものがある。そこで本年度の講義は、まず経営史学の成立、発展の歴史的過程を明らかにし、さらに、その過程で生まれた企業者史学などの学説史的検討をおこないたい。

次に、具体的事例の検討に入りたい。その場を日本に求め、江戸時代以降の経営史を明らかにしていきたい。つまり、前近代社会から近代社会における経営活動を中心とした歴史的過程の分析が考察の対象となる。

［講義計画］

＜春学期＞

1．経営史学の成立と発展
2．経営史学の展開
3．企業者史学の台頭
4．前近代社会の経営史
5．近代社会の経営史
6．現代社会の経営史

［成績評価の方法］

試験を中心に行う。

［参考文献］

随時指定する。

［教科書］

藤田貞一郎、他著「日本商業史」有斐閣、１９７８年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
企業論		秋学期集中	4単位	稲別正晴

［講義概要・学習目標］

企業社会といわれるように、企業は生産や流通などの経済活動において大きな役割を担っているが、今日の典型的な企業は株式が公開され、いわゆる所有と経営の分離がみられる株式会社である。また、企業は絶えず変化する環境に適応しながら存続していく存在である。このような企業の仕組みとその活動を理解することは極めて重要である。

本講義では株式会社を主たる対象として、その仕組み、経営者の役割、目的、組織、経営戦略などについて説明する。

また、企業規模の増大と共に、企業活動が社会に及ぼす影響も大きくなり、その社会的責任が問われるようになってきている。本講義ではこの点についても触れる予定である。

ところで日本企業はバブル崩壊後の激変する環境のもとで構造改革を迫られ、日本企業の強みとされていた多くの要因がいまや負の遺産として企業の大きな負担となっており、日本企業はそのシステムの何を残し、何を変革あるいは捨てるべきかを問われている。したがって、できる限り日本企業の諸課題も視野に入れながら講義を進めていきたい。

受講生諸君の積極的な参加を期待している。

［講義計画］

1．序論―企業と市場
2．企業形態、株式会社を中心として
3．企業目的
4．企業評価と成長
5．所有と経営の分離
6．コーポレート・ガバナンス
7．プリンシパル―エージェント関係
8．取引費用の理論
9．企業組織
10．経営戦略
11．日本の企業システム
12．企業経営と環境問題
13．日本企業の国際経営

［成績評価の方法］

試験の成績にリポートの評価を加味して評価する。

［参考文献］

プリントに記載、また講義時に指示する。

［教科書］

プリントを配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営財務論		春学期集中	4 単位	今　木　秀　和

［講義概要・学習目標］

企業は、さまざまな経営資源を必要としている。人、物、金情報等の資源がそれである。このうち金（カネ）という資源を対象として講義を行うのが経営財務論である。

金（カネ）は、経営財務論では資本といわれる。企業は、資本を資本市場や企業内部から調達する。調達した資本は、目的や使途に合わせて資産の形態で運用される。運用の結果は、損益として把握され、配当その他として処分される。資本の調達、運用、利益処分がこの講義の主要な問題領域である。

経営財務の基礎知識の習得が、この講義の目標である。

［講義計画］

第1部　財務の基礎
第2部　キャッシュ・フローと資金の管理
第3部　投資決定と企業価値
第4部　資本調達と配当政策
第5部　経営戦略と財務

［成績評価の方法］

成績評価は、学期末テストを基本とする。数回レポート提出を求める。出席をとる。レポート、出席点を加味して評価する。

［参考文献］

後藤幸男他著『新経営財務論講義』中央経済社
杉井弘和編著『企業財務論』税務経理協会
村松司叙著　『財務管理入門』同文館
井手正介他著『経営財務入門』日本経済新聞社
坂本恒夫編　『テキスト財務管理論』中央経済社

［教科書］

教材として次のものを使う。
榊原茂樹他著『現代の財務管理』有斐閣

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経営労務論		春学期集中	4 単位	面地 豊

[講義概要・学習目標]

人間の労働が経営と結びつくことによって、どんな問題が生じてくるか、を説明する。そこで生じてくる諸問題を、経営の側から見るのではなく、労働する人間の側から見ていく。このことを通じて、経営労働の、人間的問題を考えていく「眼」をもつことを学習の目標とする。

経営労務論は、結局、労働者問題を取り扱う学問であることが理解されるならば、目標は達成である。

[講義計画]

講義は、基礎論と各論とに分けて行う。基礎論においては、何故、労働者問題が生ずるか、その内容は何か、について言論述していく。

各論においては、具体的な経営労働に関する問題について言論していく。賃金、労働時間、労働に関する法律、など多数の項目について説明していく。

尚、教科書については、基礎論の講義の時に用いる。他はノート講義をおこなう。

[成績評価の方法]

ノート(提出)評価　40点

試験評価　60点

[参考文献]

その都度指示する。

[教科書]

坂本著『経営社会学の生成』千倉書房

経営 02～

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
生産管理論		春学期集中	4単位	鬼塚光政

［講義概要・学習目標］

<概要>生産管理論は、企業における生産システムの構築と運用に関する諸問題を考察する経営管理論の各論的科目である。講義では、18世紀後半に起きた産業革命期英国・仏国に芽生え、19世紀末から米国で本格的に形成され、さらに1970年代以降日本で新たに展開した「近代的生産管理」の生成・発展の過程を経済的・社会的・技術的背景を踏まえて段階的に跡付け、各段階の代表的な生産管理方式の構造、特徴、意義と限界を講述する。その場合、市場経済体制下の生産管理の基本的性格とその考察方法を明確にした上で、主題の生産管理の生成・発展史の考察に入る。

<目標>
（1） 生産管理の基本的性格と分析視角
（2） 生産管理の分析に必要な基礎概念
（3） 各発展段階の代表的な生産管理方式の構造、特徴、並びに意義と限界
（4） 経営工学の関連諸手法とそれらの生産管理への適用
（5） 生産・生産管理の発展と社会・自然との関係

［講義計画］

（1） オリエンテーション（1回）
（2） 生産管理の基本的性格と分析視角（6回）
（3） 中間試験（1回）
（4） 生産管理の生成と発展（18回）

［成績評価の方法］

中間・期末試験の成績、出席状況、レポートなどの提出状況。

［参考文献］

追って指示する。

［教科書］

追って指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マーケティング論		春学期集中	4 単位	鈴　木　幾多郎

［講義概要・学習目標］

この講義では、マーケティングの役割、市場と消費者行動、市場細分化と標的市場の選択、製品開発とブンランド・価格決定・マーケティング・チャネル・マーケティング・コミュニケーションなどのマーケティング活動などのマーケティングの問題を分析する基本概念を説明した上で、ケースや具体的事例を示しながら、マーケティングのグランドデザインを作成する方法を解説する。

［講義計画］

1．　マーケティングの役割
2．　市場、市場需要、マーケティング環境
3．　消費者市場と購買者行動
4．　競争への対処
5．　市場細分化と標的市場の選択
6．　製品開発とポジショニング
7．　ブランドとブンランド戦略
8．　価格決定戦略
9．　マーケティング・チャネルの選択とマネジメント
10．マーケティング戦略のグランドデザイン

［成績評価の方法］

試験（レポートを含む）で評価する。

［教科書］

レジメ及び資料を配布する。

［参考文献］

参考文献及び資料等については、その都度指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
流　通　論	01	春学期集中	4単位	岸　本　裕　一

［講義概要・学習目標］

流通とは、生産と消費という２つの経済活動の間に存在する懸隔（隔たり）を架橋する経済活動である。流通論は、この流通を分析対象として、これを国民経済的視点から論ずるものである。そのうえで、近年特に、大切になってきているのは、地球的規模での流通を考える視野を持つことであり、かつまた、時代の要請に応えるべく、フロンティア精神でもって思考構築を行なうことであろう。そこで、この講義の学習目標を要約していえば、建学の精神にいう世界の市民としての視点から、新世紀の流通・マーケティングの最前線を理解することということになる。

さて、講義内容は、講義計画に示すように多岐にわたるが、その一部を紹介する。まずはじめに、世界経済のトレンドと流通や、流通論の範囲と対象などの概論を学んだ後、各論に入る。まず、教科書2を用いつつ、ブランド論・販売促進論を講義する。販売促進の１つであるテレビＣＭは、現代社会を映す鏡であることを踏まえたい。また、フロンティア産業としてのエンターテインメント・ビジネス論が興味深い。教科書1を用いつつ、音楽ビジネス・マーケティングの展開やギャンブル産業・マーケティングの新展開、特にカジノ開設の是非などに触れていきたい。ビデオやＣＤ等を駆使しながら、わが国独特のこの状況をも含めて、リアルタイムに動くもの取り入れていくつもりである。

［講義計画］

1. 世界経済のトレンドと流通

2. 流通論の範囲と対象

3. 地域振興と流通

4. ブランド論

5. 販売促進論

6. フロンティア産業としてのエンターテインメント・ビジネス論
　1）音楽ビジネス・マーケティングの展開
　2）ギャンブル産業・マーケティングの新展開（カジノ開設の是非）

7. 今後の流通の展望
　　――地域経済と世界経済――

［成績評価の方法］

定期試験の点数と、平常提出物の評価と、授業での参加と貢献、出席頻度などを総合的に評価して行なう。

［教科書］

岸本裕一・生明俊雄著『J-POPマーティング』中央経済社、２００１年。

［参考文献］

進行にしたがって指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
流通論	02	秋学期集中	4単位	隅田　孝

［講義概要・学習目標］

流通とは生産と消費を架橋する経済的、社会的活動を意味する。従来、流通は生産－仲介－消費という流れを基本として行われていた。また、流通の形態は各産業ごとに多様であり、複雑なものである。たとえば、ある産業では仲介業者が重層的に介在する流通システムが確立されている。

今日では、インターネットの普及により流通の様相が大きく変化してきている。製品のカスタマイゼーションやB to B、B to C、C to C取引に見られるように、流通システムは進化の過程にあるといってよいだろう。

本講義では、日常生活において極めて身近な存在である食品に携わる食品産業の流通システムを事例に取り上げ、流通システムの現状をマーケティング論的視点から深く理解していくことを目的としている。

［講義計画］

1. オリエンテーション
2. マーケティング論的視点から見た流通システムの基本概念
3. 新世紀における食品産業マーケティングのフロンティア
4. 食品産業の商品戦略にみるブランドコンセプトの確立とブランドポジショニング
5. GM作物・食品の生産・流通・規制と商品戦略の動向
6. 食品産業の物流戦略にみるサプライ・チェーン・マネジメントの展開と課題
7. 食品産業における内外価格差問題の変遷とその今日的課題
8. 時代を反映する食品産業の販売促進戦略
9. 食品マーチャンダイジングにおけるチラシとPOP広告による販売促進戦略
10. マクドナルドにみるグローバライゼーションとローカライゼーション
11. 成長しつづける子供市場と食品産業マーケティング
12. 2010年を視野に入れた食品産業マーケティングのあり方とその展望
13. まとめ

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

［成績評価の方法］
出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。

［参考文献］
(社)日本マーケティング協会(編)『マーケティング・ベーシックス』第二版、同文舘、2001年。

［教科書］
岸本裕一編著『Brand・GM・SCM―食品産業マーケティングのフロンティア―』、農林統計協会、2004年。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
証　券　論		通期	4単位	吉川真裕

［講義概要・学習目標］
この授業では証券市場の仕組みを説明した上で、受講者自身が将来いかにして証券市場を活用していくのかという実践的な課題への指針を獲得してもらうことを目標とする。個人による資産運用がますます求められる中で、いかにして証券市場を活用し、個人の生活を向上させるのかということは重要な問題である。どの株を買えば儲かるのかということではなく、どのようにすれば有利に資産を増やしていくことができるのかということを考える機会にして欲しい。

［講義計画］
1. 証券
2. 証券市場
3. 投資リターンのとらえ方
4. 株式投資のリターン
5. 企業価値の評価尺度
6. 証券投資のリスク
7. 株式投資戦略
8. ポートフォリオで考える
9. 資産ミックスで運用する
10. パッシブ運用
11. アクティブ運用
12. 投資信託
13. 国際投資戦略
14. 年金運用と証券投資

［成績評価の方法］
持ち込み不可の中間試験と期末試験。試験問題は論述形式であり、自分の言葉で答えられるかどうかを重視する。

［参考文献］
大和総研『日本人のためのお金教科書』翔泳社、2001年
証券広報センター『証券市場2002』日本経済新聞社、2002年
日本証券経済研究所『詳説 日本の証券市場 2002年版』日本証券経済研究所、2002年

［教科書］
井手正介・髙橋文郎『ビジネスゼミナール 証券投資入門』日本経済新聞社、2001年、¥2500

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
保険論		秋学期集中	4単位	武田 久義

[講義概要・学習目標]

保険はリスクに対処する手段の一つである。リスクに対する合理的管理法の、一般にリスクマネジメントと呼ばれている。リスクマネジメントの方法は、一般にリスク・コントロールとリスク・ファイナンスに分けて考えられるが、保険はリスク・ファイナンスのなかで中心的な役割をなしている。リスクが増大している現在の社会にあって、リスクマネジメントや保険の学習はおそらく不可欠のものとなるだろう。

ところで、日本の保険制度は、現在転換期にあると思われる。以前の日本では考えられなかったような様々な出来事が起きている。これは、保険制度に限らず、日本自体が歴史的な転換期にあるからであろう。

この講義では、まず最初に、リスクマネジメントと保険についての基礎的な学習を行う。その上に立って、歴史や文化等の諸要素を考慮しつつ、保障制度のあり方についても考えていきたい。

[講義計画]

主な講義内容は、次の通りである。
①リスクの意味と内容
②リスクマネジメント
③保険の意義と役割
④保険の類似制度
⑤保険の契約
⑥保険の種類と代表的な保険について
⑦保険の歴史と文化
⑧保障制度の将来

[成績評価の方法]

期末テストとレポート等による。出席等も考慮する場合がある。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考文献]

保険に関連するものは、基本的に参考になる。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際経営論 （旧経営・商学特講－国際経営論）		春学期	2 単位	中 井 壽

[講義概要・学習目標]

国際経営とは、内外の経営を区別することなく地球的視野を持って活動するもので、そのマネジメントは「日本を世界の一地域として捉える経営」志向であり、海外展開する子会社は「国境を感じさせない」地域に根ざした自主経営を目指すものでる。このような視点にたって国際経営の基本と現実の事例研修を取り上げながら講義を進める。

[講義計画]

1．国際経営と環境
2．企業の国際化展開
　多国籍企業の理論モデル／日本企業の国際化展開
3．経営の国際化
　経営の国際化組織と管理／グローバル人材の育成
　経営の現地化
4．グローバル経営と戦略
　アジア市場と企業戦略／欧米市場と企業戦略
5．多国籍企業と社会的責任

[成績評価の方法]

期末試験で評価

[教科書]

適時プリント資料を配付

[参考文献]

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営情報技術論 （旧情報システム概論）	０１ ０２	春学期集中 秋学期集中	４単位 ４単位	村　山　博

［講義概要・学習目標］

多機能な携帯電話やオンラインゲームや情報家電などのように、インターネットの進歩は目覚しく、私たちの生活を飛躍的に変革しようとしている。現代の高度情報化社会では、これらの情報の活用が個人や企業の成否を決めると言っても過言ではない。本講義は、ビジネスマンまたはビジネスウーマンが、社会人として必要な情報技術の基礎の習得を目的とする。

［講義計画］

１　高度情報社会の現状と未来の生活
２　さまざまな情報と社会の変化
３　コンピュータの歴史
４　コンピュータによる情報表現：文字、映像、動画、
５　コンピュータのハードウエア：ディスプレイ、プリンター、
６　ソフトウエア：オペレーティング・システム、応用ソフトウエア
７　データベースシステムとその活用
８　通信の仕組みと各種プロトコル
９　通信ネットワークシステム：インターネット、ブロードバンド、
１０．情報管理：電子商取引、サプライチェーン・マネジメント、
１１．ネットワーク時代の知的財産権：著作権、特許権、
１２．情報セキュリティ：暗号技術、電子認証、ウイルス対策、

［成績評価の方法］

出席状況、授業態度、期末試験により、総合的に判断して評価する。

［参考文献］

その都度指示する。

［教科書］

村山博、大貝春俊著「高度知識化社会における情報管理」コロナ社　2003

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営情報システム論 （旧経営情報論）		春学期集中	4単位	深谷　清之

［講義概要・学習目標］

1951年に世界最初の電子計算機が販売されて以来、コンピュータは、製造、流通、金融、行政などの多くの組織において多様な使われ方をし、経営のあり方に大きな影響を与えて来た。特に近年は、コンピュータ技術や通信技術などを駆使して、経営戦略の企画・検証，組織の再構成、意思伝達メカニズムの効率化などが戦略的に進めている。本講義では、まず、そのような経営情報システムとは何かを概観したあと、情報システムを効果的に導入したいくつかの先進的な事例を紹介し、その効果はどのようなものかについてケーススタディを通じて講述する。次に、経営情報システムを理解するために必要な最小限の基本的な情報技術を紹介した後、組織における情報管理、組織と情報システムの関係、業務形態と情報システムの関係、経営と情報システムの関係などを学ぶ。

［講義計画］

- 経営情報システムに関する概論
- 企業における先進的情報システム事例
- 経営情報システムにおける基本情報技術と情報管理
- 組織と情報システム
- 業務形態と情報システム
- その他

［成績評価の方法］

レポートと期末試験の成績で総合的に判断する。

［参考文献］

必要に応じて、適宜指示する。

［教科書］

薦田 憲久、矢島 敬士：「企業情報システム入門」、 コロナ社(1999)

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
情報化組織論　(旧：システム設計)		春学期集中	4単位	牧野　丹奈子

［講義概要・学習目標］

情報化社会の今日，企業には新しい知識を次々と生み続けることが求められている。しかし，画期的な知識を生み続けることは易しいことではない。
では，どのような組織ならば，新しい画期的な知識を次々と生み出せるのか。どのような組織構造や職場が望ましいのか。
このような問題に対して，企業組織をひとつの“システム”とみなしながら取り組むことが，本講義の学習目標である。
つまりこの講義では，“情報化社会では，どのような組織が成功するのか”を，システム論を用いながら学習することになる。

［講義計画］

1．自己組織化経営の必要性（情報化社会で企業に求められること）
2．個人自律化（情報化社会で個人に求められること）
3．組織の二重構造（組織のとらえかた）
4．「自律性」と「関係性」（職場のとらえかた）
5．情報と物質とのちがい

［成績評価の方法］

試験とレポートなどの総合評価によっておこなう。

［教科書］

『経営の自己組織化論－装置と行為空間』牧野丹奈子　日本評論社

［参考文献］

その都度，参考文献を紹介する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経営工学		秋学期集中	4単位	明石　吉三

［講義概要・学習目標］

経営工学は経営諸問題に対する科学的、数学的接近法である。この分野は英国、米国の軍事研究を発端に生まれた。その後、ＩＥ(Industrial Engineering)、オペレーションズリサーチ、経営科学として、経営諸問題の科学的方法として、大きく発展した。
本分野は数学的分析・計画手法、品質管理、在庫管理、意思決定論など、様々な分野別の理論を含み、きわめて広範囲である。本講義では、文科系学生諸君を前提に、経営工学的接近法の意義、手法、モデル化法を講義する。高度な数学的知識を必要とする内容にならないよう心掛ける予定である。

［講義計画］

以下の内容を講義する。

（1）　経営工学とは何か
（2）　数理計画法の基本
　　a．線形計画法
　　b．ＰＥＲＴ手法
　　c．近年の話題（ニューロコンピューティング、遺伝的アルゴリズム）
（3）　在庫管理論
（4）　品質管理論
（5）　その他：予測手法、意思決定論

［成績評価の方法］

レポート及び試験による総合評価。

［教科書］

なし。

［参考文献］

別途指示する。

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
情報検索論（旧経営情報学特講<情報検索論>）		春学期集中	４単位	志保田務

［講義概要・学習目標］
情報検索について、文系、社会科学系からのアプローチをする。「情報検索」がどういうものを指し、どういったところで活かされているか、今日的にどのようなかちを有するかを論じる。その上で、技術的な把握、たとえば、各種検索エンジン、ゲートウエー、ポータルサイトなどの評価を行う。技術実習は、人数的な問題から、宿題にすることが多いが、これへの応答を、学内ホームページNile２lesson tshihota及びメールでおこなう。なお、講義計画の「５」～「１４」は<講義>―<演習>の２本立てである。

［講義計画］講義計画は、次のとおりである。各、２回程度
1　情報検索の意味的理解：定義、範囲、用語など
2　情報検索の歴史面における理解：コンピュータ以前の情報検索
3　現代社会と情報検索：コンピュートピア、生活と情報の検索
4　実業、経営における情報検索の位相：シスアド、サーチャーなどに関する概説
5　情報検索の空間（講義１，演習１、以下「14」まで同様）
6　情報と著作権問題
7　検索ルート：検索エンジン、有料・無料サイトなど
8　検索機器：オンライン、オンデスク、モバイル、携帯電話など
9　検索内容パターンと、検索方法パターン
10　ファクトリトリーバルとドキュメントリトリーバル
11　ファクトデータベースとレファレンスデータベース
12　書誌情報
13　図書館情報
14　索引、索引づくり
15　テスト

［成績評価の方法］　レポートとテストによる

［参考文献］志保田務、平井尊士、中崎修一『情報活用術』
桃山学院大学情報センター『ユーザーズガイド』

［教科書］
後に指示する

科　　目　　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ビジネス情報利用（旧プログラミング論　B）	０１ ０２	春学期 春学期	２単位 ２単位	榎本光世

［講義概要・学習目標］
インターネットやワープロの普及によって職場でも家庭でもPCは日常的に利用され、必須の道具となった。本講は実習形式で行われ、初歩的なPCの扱い方からはじめ、中級レベルまでのスキルを得ることを目指す。

1. Windowsやパソコンの基本的な操作を習得する。
2. Internet Explorer、Word、Excel、PowerPointなどの一般的なアプリケーションの簡単な使用法を習得する。

［講義計画］
1. 講義概要
2. パソコンの仕組みとWindowsの使い方
3. Internet Explorerの簡単な使い方(その１)
4. Internet Explorerの簡単な使い方(その２)
5. Wordの基本(その１)
6. Wordの基本(その２)
7. Wordの基本(その２)
8. Excelの基本(その１)
9. Excelの基本(その２)
10. PowerPointの基本(その１)
11. PowerPointの基本(その２)

以上の内容は変更されることもある。

［成績評価の方法］
出席率、宿題の提出率、試験やレポートの成績、受講態度などによって総合的に評価する。

［参考文献］
未定、開講時に指示する。

［教科書］
桃山学院大学計算機センター『ユーザーズガイド』を毎時間必ず持ってくること。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ビジネス情報利用 （旧プログラミング論Ｂ）	０３ ０４	春 学 期 春 学 期	２単位 ２単位	大 嶋　耕 一

［講義概要・学習目標］
かつてマニアのおもちゃでしかなかったパソコンが、今では学習・研究、仕事、趣味といった、いろいろな局面での道具になった。この授業では、コンピュータを学習、研究の道具として使いこなすための基本的なスキルを学ぶことを目的とする。
内容としては、情報の収集（インターネットのWWW、E-mail）、加工・分析（表計算ソフト）、情報の表現・発信（ワープロソフト、E-mail）という、情報処理の基本要素全般を取りあげる。
これらの内容は、いずれもソフトウェアに習熟し、手足のように使いこなせるようになることが大切である。しかしながら半期の授業だけでこれらすべてに習熟することはできない。したがって課外での十分な学習（練習）を前提とする。

［講義計画］
第１回　ガイダンス、Windows の基本的な操作（マウスを中心に）
第２回　フロッピーディスクの扱い、テキストエディタを使ったキーボード操作、ファイルとフォルダの扱い
　注）Windows（DOS/V）フォーマット済みフロッピーディスクを用意しておくこと
第３回　テキストエディタを使った日本語入力・編集、クリップボードを利用した編集処理、その他基本的な機能
第４回　ワープロ入門（１）：文書の書式設定と基本的な文字属性
第５回　Network 入門（１）：ＬＡＮとインターネット、E-mailの使い方
第６回　ワープロ入門（２）：作表、レイアウト、文書作成の演習
第７回　Network 入門（２）：WWWの仕組み、WWWによる情報の検索
第８回　表計算入門（１）：文字・数値・式の入力、セルのコピー
第９回　表計算入門（２）：表の体裁を整える
第10回　グラフの作成、アプリケーションソフト間の連携
第11回　表計算ソフト、ワープロに関する演習
第12回～総合演習：Visual文書の作成（文書の構造化と画像の活用）

［成績評価の方法］
出席　３０％、レポート・提出物　７０％　で評価する。

［参考文献］
桃山学院大学計算センター『ユーザーズガイド』
その他、授業時に適宜紹介する。

［教科書］
市販の教科書は使用せず、プリントでテキストを配布する。
注：桃山学院大学『ユーザーズガイド』は各自手に入れておくこと

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング **（旧プログラミング論　A）**	０１ ０２	秋 学 期 秋 学 期	２単位 ２単位	榎 本 光 世

［講義概要・学習目標］
Visual Basic（以下 VB と呼ぶ）はソフトウェア統合開発環境である。これを本講の実習に用いる。今日、入手しやすいプログラミング言語の中でVBはおそらく最も理解し易いものだろうが、VBの先祖であり、かつてMS-DOSの時代にPCにバンドルされていたシンプルな言語のBASICと比べると、大部分異なり、より複雑である。
本講は講義形式ではなく実習形式で行われる。体系的に知識を得ることよりも試行錯誤を通じてプログラムを作り上げることに重点が置かれ、同時に創意工夫を凝らすことが求められる。
この時間内で初歩的なPCの使い方を説明している時間はないので習得してから臨むこと。
学習目標は初歩的なプログラムを作成できるようになることである。

［講義計画］
１．講義概要と受講上の注意
２．VB事始め
３．コマンドボタンとPRINT文の詳細
４．算術演算
５．キーボードからのデータの受け取り
６．判断分岐（その１）
７．判断分岐（その２）
８．繰り返し処理（その１）
９．繰り返し処理（その２）
１０．変数の配列
１１．自由課題プログラムのプレビュー
以上の内容は変更される場合もありうる。

［成績評価の方法］
出席率、宿題の提出率、自由課題プログラム、受講態度などによって総合的に評価する。

［参考文献］
未定、開講時に指示する。

［教科書］
毎時間プリントを配布するので、バインダーのようなものを各自用意すること。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
プログラミング （旧プログラミング論A）	０３ ０４	秋 学 期 秋 学 期	２単位 ２単位	大 嶋　耕 一

［講義概要・学習目標］

プログラミング言語にはさまざまなものがあり、適材適所で使用されている。本講義ではその中で最も初心者向きといわれるBASIC言語を学習する。

BASIC言語といえば、Windows環境ではVisual Basicが最も有名である。これは、JISで規定されているBASIC言語をMicrosoft社が独自に言語拡張し、オブジェクト指向という高度なプログラミング理論を取り入れ、Windows環境に適合させたものである。とはいえ、プログラミング環境を工夫してあるため、オブジェクト指向を特に意識せずにプログラミングができるようになっている。その反面、初心者にはプログラムの全体像がつかみにくいという欠点をともなう。

パソコンではWindowsが大勢を占める現状を勘案し、本講義では Visual Basic を用いることにするが、以上の点を考慮し、Windowsのインターフェースの設計は必要最小限にとどめ、BASIC言語の基本的なコマンドを用いた問題解決手法の学習に重点を置くことにする。

授業の進め方は「自修方式」を基本とする。すなわち、一斉方式の講義は必要最小限にとどめ、各自がテキストを読み進めつつ、実際にコンピュータを使って確かめながら学習し、個別に指導を行う方式をとる。

［講義計画］

第１回　ガイダンス、BASIC言語とは

第２回以後　（自修方式）

必須修得内容（進度順）

以下は、全員が学習し、指示された提出物を提出する。

1. Visual Basicによるプログラム作成の実例
   処理系の起動・終了、簡単なインターフェースの設計
2. 書式、変数と代入ステートメント、オブジェクトとプロパティ
3. 文字列、式の表現（演算子・関数）、ステートメントの実行順序
4. プログラムのコンパイル、実行可能プログラムとショートカット
5. プログラムと制御構造
   選択構造（ifステートメント）、反復構造（whileステートメント）

追加修得内容（以下は、進度に応じて追加的に学習する）

6. 問題解決のためのアルゴリズム
7. ファイル入出力、サブプログラム

［成績評価の方法］

出席　３０％、レポート・提出物　７０％　で評価する。

［参考文献］

第１回の授業時に紹介する。

［教科書］

市販の教科書は使用せず、プリントでテキストを配布する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ネットワーク論	０１	春学期	２単位	中崎　修一

［講義概要・学習目標］

ネットワーク技術の進歩とインターネットの普及に伴い、それらの技術を応用した新しいサー
ビスが次々と生み出されており、新しいコミュニケーション手段としても認知された。また、ネ
ットワーク構築・運用に関する知識は様々な分野で求められるようになった。

本講義では、ネットワーク関連技術、構築方法を中心に現在および今後のネットワークシステ
ムに関して解説し、現代社会と情報ネットワークとの関係の理解を深めることを目的とする。ま
た、ネットワークを活用するという観点から、各種活用手法や、更には新しいサービスやビジネ
スを創造するための姿勢を養うことも目標とする。

［講義計画］

1. 現代社会とコミュニケーション手段の変化
2. 情報通信ネットワークとは
3. ネットワーク基礎知識
4. クライアントサーバシステム
5. ネットワーク構成詳細
6. WWWとその活用
7. ネットワーク・セキュリティと信頼性
8. 様々なサービス
9. ネットワーク構築手法
10. 現代社会とネットワーク
11. 今後のネットワーク事情について
12. まとめ

［成績評価の方法］

レポート課題、筆記試験などから総合的に判断する

［参考文献］

必要に応じて提示予定

［教科書］

長坂康史著『情報通信ネットワークとLAN』（共立出版）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
ネットワーク実習	01	秋学期	2単位	中崎　修一

［講義概要・学習目標］

近年、ネットワーク技術の進歩やインターネット、イントラネットの普及により、コンピュータとネットワークは切り離せないものとなった。また、インターネットの利用が普及する中、膨大な情報の中から目的の情報を探し出すこのとできる能力は重要である。

本演習では、コンピュータ・ネットワークに関する理解を深めるため、インターネットを主としたネットワークの構築と利用を体験することにより、ネットワークの活用技術、特にセキュリティ面を重視しての現状や問題点の発見・検討、ネットワーク技術の理解を実習によって目指す。

その利用の中で、ただ単に利用するだけではなく、常に問題意識を持ってコンピュータ・ネットワークと接する姿勢を養うことも目的とする。

［講義計画］

1．コンピュータ・ネットワークとは
2．LAN、インターネット、ネットワークの構築
3．ネットワークを活用した情報収集
4．ネットワーク技術の基礎
5．通信プロトコル
6．インターネット詳細
7．様々なネットワーク上のサービス、コミュニケーション
8．HTML、XML、JAVA
9．ネットワーク・セキュリティ
10．現在のネットワークの問題点、解決策
11．今後のネットワーク事情について
12．まとめ

［成績評価の方法］

課題提出、出席から総合的に判断する

［教科書］

資料はWebページにて提示。

［参考文献］

長坂康史著『情報通信ネットワークとLAN』（共立出版）

経営 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マルチメディア論	01	春学期	2単位	平井　尊士

［講義概要・学習目標］

今日、世界でやりとりされる主な伝達方法は、郵便、新聞、電話、テレビ、インターネットと様々である。これらのメディアは自然環境と同じくらい巨大な存在となり、それらを通じて提供される情報は、情報化社会（人間生活）において必要不可欠の要素となっている。こうした意味において、現代はメディア統合の時代といえる。

そこで本講義においては、メディアとソフトウエア、表現、環境はどのような関連をもつのか、「Microsoft Office 2000」などの既存のソフトを利用し、基礎理論（図形処理や画像処理）を学習することにより、知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造力を発揮できるようになることを期待している。

また、メディアを取り巻く技術の進展の早さゆえに、メディアに関する研究は、過去を捨て去ってきた傾向が見受けられるため、歴史を振り返りつつ、メディアを取り巻いてきた社会制度の整備についても学習する。

［講義計画］

1．マルチメディア概論（特徴と利用方法）
　1）マルチメディアの現在
　2）各マルチメディアとインターネット
2．ソフトウエアとメディア
3．表現とメディア（「Microsoft Office 2000」等の利用）
　1）電子化技術の追求
　2）メディアとしての仮想現実空間
　3）メディアとリアリティ（公共媒体と広告媒体）
　4）図形表現とその演習
　5）画像表現とその演習
4．環境とメディア
　1）メディアと環境
　2）メディアと歴史
　3）メディアと倫理（ことばの暴力）
　4）関連法規との関連
5．まとめ：マルチメディアの意義

［成績評価の方法］

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する

［教科書］

常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社　2003.4）

［参考文献］

志保田務・平井尊士編著『情報活用術』（学芸図書　1999）
海野敏・影浦峡・戸田慎一『学術情報と図書館』（雄山閣　1999）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
マルチメディア実習	01	秋 学 期	2単位	平井　尊士

［講義概要・学習目標］

今日、情報化社会において知識・情報を利用した価値ある新しいものを生み出す創造性が強く求められる。特に、情報の電子化技術の中で、マルチメディアなどのメディアが進展する中で、デジタルコンテンツを有効に活用するとともに研究者や技術者自らが外に向かって情報を発信するための作成技術を身に付ける事が必要になっている。

そこでメディアを発信していく際の基礎的な知識から応用技術について取り上げ演習する。具体的には、コンピュータを利用したメディアの活用方法を、各種メディアの現状、特性、活用などの観点から、情報メディアについて基礎能力（図形処理や画像処理）を習得する中で、学生がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的に活用できるようにするために学習活動の充実に努める。あわせて、関連法規、倫理についても学ぶ。ただし、マルチメディアについて学習させるときには、単に技術的に各メディアの技術ばかりに深入りしないようにも注意を払う。

［講義計画］

1．マルチメディア概論（特徴と利用方法）
　1）マルチメディア概論
　2）各マルチメディアの利用方法
　3）学校における情報環境
2．ソフトウエアを選択して、メディアの表現や発信
　1）デジタルコンテンツの作成方法（ブラウザベース）
　2）印刷物の電子化技術
　3）デザイン技法とのかかわり
3．モデル化とシュミレーション（作品作成）
　1）モデル化
　2）マルチメディア作成技法（図形処理、画像処理）
4．シュミレーション　（表現方法の工夫・情報の統合）
　SGML XML の処理演習と活用事例
5．マルチメディアと周辺領域の関連
　1）情報検索およびデータベースとマルチメディア
　2）関連法規、倫理との関連
6．まとめ

［成績評価の方法］

計算機実習室にて行う演習および課題提出にて評価する

［参考文献］

志保田務・平井尊士編著『情報活用術』（学芸図書　1999）
海野敏・影浦峡・戸田慎一『学術情報と図書館』（雄山閣　1999）

［教科書］

常盤繁『マルチメディアデータ入門』（コロナ社　2003.4）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
会計学原理		**春学期集中**	**4単位**	**中　村　恒　彦**

［講義概要・学習目標］

本年度の会計学原理は、簿記から会計の歴史について学習しながら、近代や現代の会計理論についても学習します。講義の関連上、商業簿記や会計学基礎の内容を前提としますので、履修者は、商業簿記や会計学基礎の復習を必ずしておいてください。
昨年度は、非常に高度な講義・試験となってしまったために、単位認定がきわめて厳しくなりました。また、授業評価もきわめて厳しい評価となりましたので、これを改善できるように講義計画をたてることにします。本年度は、教科書を中心に進め、教科書をじっくり読んですすめていきたいと思います。教科書で足りない部分(講義計画の7・8・9)については、別途プリントを配布して授業を進めることにします。
最後に、本年度は、みなさんに興味を持ってもらえるような授業にしたいと思います。

［講義計画］

1. 方法と対象(教科書: 第1章)
2. 複式簿記(教科書: 第2章)
3. 期間計算(教科書: 第3章)
4. 近代会計の成立環境(教科書: 第4章)
5. 固定資産会計(教科書: 第5章)
6. 近代会計制度(教科書: 第6章)
7. 近代会計理論
8. 現代会計理論
9. 国際会計理論

［成績評価の方法］

期末試験(120点)+出席・発表点(20点)

［参考文献］

武田隆二［2002］『最新財務諸表論』中央経済社 / 徐龍達［1997］『ドイツ会計学』KBS社 / 中野常男［1992］『会計理論生成史』中央経済社 / 山地秀俊［1994］『情報公開制度としての現代会計』

［教科書］

友岡賛［1996］『歴史にふれる会計学』有斐閣アルマ 1,800円

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
財務諸表論		通 期	4単位	柴　理梨亜

［講義概要・学習目標］

財務会計は、企業をとりまく利害関係者に対して当該企業の財政状態及び経営成績に関する真実な情報を提供することを目的としている。これらの利害関係者には現在または将来の株主や債権者、国や地方の公共団体などの租税当局、各種規制機関、従業員、消費者、地域住民などが含まれる。

本講義では、現行の財務会計の制度について学び、企業が外部の様々な情報利用者に対して、信頼しうる有用な情報を提供するという使命をどのように果たすかを検討、理解する。

商業簿記の学習内容を基礎にして、3年時以降に履修する経営学部専門科目の内容が理解できるよう、企業の財務報告のポイントを理解することが学習の目標である。

［講義計画］

1.オリエンテーション
2.企業会計の概要
3.企業会計の一般原則
4.資産の会計
5.負債の会計
6.資本の会計
7.費用収益の会計
8.財務諸表
9.連結財務諸表
10.税効果会計
11.リース会計
12.金融商品会計
13.外貨換算会計
14.物価変動会計

［成績評価の方法］

出席、平常店とテストの結果を総合的に評価する。

［教科書］

加古宜士（著）「財務会計概論」第4版、中央経済社

［参考文献］

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
株式会社会計（旧簿記Ⅱ）		秋学期	2単位	河野　勉

［講義概要・学習目標］

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、中級程度の商業簿記（株式会社の簿記）を講義する。

簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習を解く学習を中心に授業を進める。

財務諸表論学習のための基礎知識や公認会計士・税理士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得を目標とするので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

［講義計画］

1．簿記一巡の取引と財務諸表
2．現金預金取引
3．有価証券取引
4．債権債務取引
5．手形取引
6．引当金取引
7．特殊商品売買取引
8．固定資産取引
9．株式会社会計
10．決算整理・財務諸表の作成
11．本支店会計・合併財務諸表の作成
12．帳簿組織・仕訳帳の分割・伝票式会計

［成績評価の方法］

定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

［教科書］

・武田隆二著　「簿記一般教程　（第5版）」（中央経済社）
・加古　宜士・渡辺　裕亘（編著）「新検定簿記　ワークブック2級商業簿記」（中央経済社）

［参考文献］

加古　宜士・渡辺　裕亘（編著）「新検定簿記講義2級商業簿記」（中央経済社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
工業簿記　（旧簿記Ⅱ）		秋学期	２単位	河野　勉

［講義概要・学習目標］

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、製造業の簿記（初歩の原価計算を含む）を講義する。
簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習を解く学習を中心につとめて実践的に授業を進めたい。
原価計算論学習のための基礎知識や公認会計士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得に役立つと思うので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

［講義計画］

1．工業簿記の構造
2．材料・労務費・経費の計算
3．製造間接費計算
4．部門費計算
5．個別原価計算
6．総合原価計算
7．標準原価計算
8．直接原価計算
9．工場会計の独立

［成績評価の方法］

定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

［教科書］

小林哲夫・伊藤　博（共著）「最新工業簿記増補改訂版」（実教出版）

岡本　清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記ワークブック２級工業簿記」（中央経済社）

［参考文献］

岡本　清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記講義２級工業簿記」（中央経済社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
原価計算システム（旧 原価計算論）		春学期	２単位	小　林　哲　夫

［講義概要・学習目標］

製品原価計算の基礎的な概念や手続について学習する。
基礎的概念を通じて原価計算システムの基本構造を理解するとともに、計算演習に多くの時間をかけて、計算能力を身につけるようにする。

［講義計画］

おおむね次の順序で講義を行う。
(1) 原価の基礎概念
(2) 原価計算システム（原価計算制度）の役割
(3) 実際総合（全部）原価計算の基本手続
(4) 直接原価計算の意義と手続
(5) 個別原価計算の手続
(6) 部門別原価計算の手続
(7) 標準原価計算の意義と手続

［成績評価の方法］

期末テストも行うが、常時の計算演習の参加を重視する。

［教科書］

授業中に資料を配付する。

［参考文献］

小林哲夫『原価計算：理論と計算例』（中央経済社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コスト・マネジメント（旧　原価計算論）		春学期	2単位	小　林　哲　夫

［講義概要・学習目標］

多品種小ロット生産、ＪＩＴないしリーンな生産方式、ＦＡ化、グローバル化などに対応する現代経営を取り巻く原価計算の課題と動向を背景としながら、原価計算及びコスト・マネジメントについて講義を行います。

原価企画、ライフサイクル・コスティング、品質コストのマネジメントなど、トピカルな問題についてもできるだけ時間を割いて講義を進めていきたいと思っています。

現代経営における原価計算及びコスト・マネジメントについての知識を身につけることが学習の目標です。

［講義計画］

(1) 現代経営を取り巻くコスト・マネジメントの課題
(2) 標準原価管理の問題点
(3) ＡＢＣ（活動基準原価計算）意義
(4) 戦略的コスト・マネジメントへのアプローチ
(5) 品質原価計算とライフサイクル・コスティング
(6) 原価企画

［成績評価の方法］

期末テストと中間レポートの提出

［教科書］

小林哲夫『現代原価計算論：戦略的コスト・マネジメントへのアプローチ』（中央経済社）

［参考文献］

日本会計研究学会『原価企画研究の課題』（森山書店）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
管理会計論		春学期集中	4単位	清　水　信　匡

［講義概要］

企業は様々な経営管理の手段を持っていますが、その中核に計画とコントロールシステムがあります。企業における計画とコントロールの主要部分を管理会計が担当しています。したがって、本講義では、まず経営管理活動における計画とコントロールの意義を説明します。次に、計画とコントロールがどのように管理会計技法によって遂行されているのかを説明します。

［学習目標］

①計画とコントロールの理解
②管理会計の主要な技法の理解

［講義計画］

1　経営管理プロセスにおける管理会計の役割
2　計画とコントロール
3　短期利益計画
4　予算管理
5　日常業務の管理会計
6　事業部制会計

［成績評価の方法］

試験の成績で評価する。

［教科書］

講義開始後指示する。

［参考文献］

伊丹敬之・加護野忠夫著『ゼミナール経営学入門（改訂版）』日本経済新聞社 1993 年
加登豊『管理会計入門』（日経文庫Ｃ４１）日本経済新聞社 1999 年
門田安弘著　『管理会計－戦略的ファイナンスと分権的組織』税務経理協会　2001 年

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
経　営　分　析		秋学期集中	4単位	河　合　隆　治

［講義概要・学習目標］

経営分析は、どの会社が強いのか、もしくは弱いのかについて、貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書といった会計情報を利用して分析する分野です。

このような分析は、みなさんがどの会社に就職しようか迷ったとき、株式を買う時、会計や金融を専門とする職業に就く時に役立ちます。

本講義では、経営分析の基本的な考え方や計算方法を理解することを目的とします。経営分析ができるようになるためには、基本的な考え方を理解するだけではなく、実際に分析できる必要がありますので、講義の途中で受講生のみなさんに簡単な計算をして頂きます。本講義を修了することにより、「会社四季報」などに書かれている会社に関するデータの意味がわかるようになり、証券アナリスト試験を受けるための基礎的な力がつくことになります。

本講義を受ける上で、経営学部の必修科目である「商業簿記」の知識を習得済み、もしくは並行して習得していることが望ましいです。しかし、本講義を理解する上で必要な簿記や会計学の知識は、必要に応じて簡潔に説明しますので、これらの知識を持っていなくても経営分析を理解することは可能です。

［講義計画］

本講義は、大まかに以下のように進めます。

1 経営分析とは何か
2 貸借対照表で何がわかるか
3 損益計算書で何がわかるか
4 会社の財務安定性はどうか
5 会社の収益力は十分か
6 会社の活性度はどうか
7 会社の発展性はあるのか
8 資金繰りは十分か
9 会社に勤める従業員の能力はどうか
10 総合的に会社の状態を分析する

講義の進度は講義の途中で行う計算演習や受講者の理解度をみて調整します。計算演習を行いますので、受講者は毎週計算機（電卓）を持参してください。

講義計画や成績評価方法などの詳細については初回の講義で説明しますので、受講希望者は必ず出席してください。

［成績評価の方法］

期末試験結果を中心とし、出席、発表を加味して評価を行います
（昨年度実績：試験100点、出席10点、発表10点）

・講義受講者の様子を考慮して得点配分を決めるため、昨年同様のウエイトで評価しません

［教科書］

森田松太郎『ビジネス・ゼミナール：経営分析入門』日本経済新聞社、2002年。

［参考文献］

・桜井久勝『財務諸表分析第二版』中央経済社、2003年。

・毎回必要な補助資料（プリント）を配布します。

その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
税務会計		秋学期集中	4単位	金　光　明　雄

［講義概要・学習目標］

税務会計は、企業の活動内容を記録し、それに基づいて企業（個人企業と法人企業の両方を含む）の課税所得金額と税額を計算して、その結果を報告する過程です。税務会計によって作成される課税所得金額や税額に関する情報は、申告納税制度のもとでまず税務当局に対して報告され、さらに合理的な租税負担を可能にする有効なタックス・プラニングのための情報として企業の経営者に対しても報告されます。とくにバブル経済の崩壊以降、長引く経済不況のために、それまでの売上拡大による企業成長が困難な状況となった現在においては、できるだけ企業の納税額を節約（「脱税」とは違う）して税引後キャッシュ・フローを増やすことが、企業価値最大化の観点から注目されています。このような意味においても、税務会計の果たす役割は重要なものとなってきています。

この講義では、主に法人企業を対象にして、税務当局や経営者に対して報告される課税所得金額や税額の計算の仕組みとルールを、財務会計との相違点にも触れながら解説します。そして最終的には、税務会計の基本的な枠組みが理解できるようになることを目指します。

［講義計画］

概ね以下のような内容にそって、講義を進めていく予定です。またこの講義では、理解を深めるために、適宜、計算問題による演習ならびにレポートの提出を予定しています。

1. 法人所得課税制度の概要
2. 課税所得計算の構造
3. 益金計算・損金計算の原則と特例
4. 棚卸資産
5. 有価証券
6. 固定資産
7. 特別償却・圧縮記帳
8. 繰延資産・引当金
9. 給与・租税公課
10. 寄附金・交際費
11. 受取配当金
12. 企業組織再編税制
13. 連結納税制度
14. 税効果会計

なお、この講義の具体的な進め方や成績評価の方法については初回の講義（オリエンテーション）で説明しますので、受講希望者は必ず初回の講義に出席してください。

［成績評価の方法］

出席状況、レポート、期末試験などを総合して評価します。

［教科書］

菊谷正人『法人税法要説－税務計算例でわかる法人税法－』同文舘出版，2003年。
その他、適宜レジュメを配布します。

［参考文献］

中田信正『税務会計要論（12訂版）』同文舘出版，2003年。
その他の参考文献については、必要に応じて講義の中で指示します。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
監査論		春学期集中	4単位	朴　大　栄

［講義概要・学習目標］

バブル経済の崩壊とともに、長期にわたる不況が数多くの企業倒産を引き起こしている。倒産企業においては、経営者による不正や粉飾財務諸表の作成が判明することもある。監査人が適正意見を表明した財務諸表の発行会社が、その直後に倒産することもある。このような状況のもと、監査の中身に対する社会的関心も高まり、2002年１月には監査基準の大幅な改訂も実施された。
監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の監査制度の問題点などにも触れていくことにする。
本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する証券取引法監査ないし会計監査を中心に、監査に関する基礎知識の理解を目的とする。

［講義計画］

講義の順序を示す。
第１章 監査とは（CPA業務）　第２章 監査論の考え方
第３章 監査の必要性　第４章 監査の限界と補強方法
第５章 監査の歴史的発展　第６章 監査目的と不正
第７章 監査基準の意義　第８章 監査人の資格と条件
第９章 監査の実施　第10章 監査計画と監査証拠
第11章 リスク・アプローチ　第12章 監査意見
第13章 監査報告書と適正性　第14章 ゴーイング・コンサーン
第15章 追記情報

［成績評価の方法］

定期試験の成績と出席状況を勘案して評価する。

［教科書］

加藤恭彦・友杉芳正・津田秀雄編著
『監査論講義』　中央経済社

［参考文献］

鳥羽至英著　『監査基準の基礎』　白桃書房
山浦久司著　『会計監査論』　中央経済社
その他、講義中に適宜指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
国際会計論　（旧国際会計論）		春学期	２単位	柴　理梨亜

［講義概要・学習目標］

国際化、グローバル化がますます進む現在の環境では当然、会計もその影響を受けている。日本でも国際会計基準が重要視されるようになり、日本の会計基準との調和化問題も大きな課題となっている。

本講義ではグローバル・スタンダードとなった国際会計基準について学ぶとともに、実際の英文財務諸表を利用しながら多くの英語の会計専門用語を身につけ、英文財務諸表の内容を理解できるようになるのが目的である。

［講義計画］

１．国際会計基準の歩み
２．国際会計基準の制定までの流れなど
３．国際会計基準のフレームワークと日本の実情
４．グローバル・スタンダードの連結財務諸表
５．金融商品と時価会計
６．税効果会計
７．年金会計
８．有形固定資産とリース会計
９．損益計算書の役割
１０．ディスクロージャー

［成績評価の方法］
出席、平常店とテストの結果を総合的に評価する。

［教科書］
西川郁生（監修）ＪＵＳＣＰＡ国際会計基準専門部会（著）、「よくわかる国際会計基準」第２版、中央経済者

［参考文献］

１．長谷川重男、萩　茂生、川本修司（著）「日本の財務諸表が変わる－会計の国際化の進展」（中央経済社）

２．青山監査法人プライス・ウォーターハウス「国際会計基準ハンドブック」新版　（東洋経済新報社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
連結会計論（旧国際会計論）		秋学期	2単位	柴　理梨亜

［講義概要・学習目標］

単独企業の財務諸表に代わってグループ企業の連結財務諸表が主役になった今、本講義ではその連結財務諸表について学びます。例えば、はなぜそのような連結財務諸表が必要なのか、その制度とはなにを目的としているのか、その財務諸表の構成は、などを理解するのが目的である。

［講義計画］

1．証券取引法に基づく情報開示制度
2．連結決算制度
3．連結貸借対照表
4．連結損益計算書
5．連結剰余金計算書
6．連結キャッシュ・フロー計算書
7．連結財務諸表の注記事項
8．連結の範囲と基準

［成績評価の方法］
出席、平常点と期末テストを総合的に評価する

［教科書］
新日本監査法人（著）「図解早わかり　連結決算書入門」、ＢＳＩエデュケーション

［参考文献］

経営 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コンピュータ会計 （旧会計学特講－コンピュータ会計）	01 02	春学期 春学期	2単位 2単位	安　井　一　浩

［講義概要・学習目標］

現在では経理作業にコンピュータは欠かせないものとなっています。この講義では経理用ソフト「弥生会計」を使用してパソコンによる経理実務を学習します。また単に操作だけではなく、その背景にある簿記の理論も学習します。また必要に応じて表計算ソフト等の活用方法も説明します。日常的な経理実務ができるようになることを目標とします。

［講義計画］

経理用ソフトの各種設定、現金出納帳、預金出納帳、売掛帳の記帳方法、伝票の作成方法を順次説明し実際に作成してもらいます。また講義の中で適宜、複式簿記の原理、帳簿組織の仕組みを説明します。なお講義は例題を使った演習を中心に進める予定です。

［成績評価の方法］

出席回数、講義中の演習及び考査を総合的に考慮して評価します。

［教科書］

「弥生会計」の操作マニュアル
まなびの入門会計学　（中央経済社）
中田　信正編著／徐　龍達編著／小林　哲夫編著
ISBN:4-502-18810-7

［参考文献］

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
税法 I （旧税法）		春学期	2 単位	中田信正

［講義概要・学習目標］

（講義概要）
税法のうち、身近な問題を対象に、個人の所得に課せられる所得税の仕組みを講義する。日本の税制を全般的に述べた後、所得税を取り上げ、その計算構造を体系的かつ具体的に解説する。所得の種類およびそれぞれの所得の計算方法、所得控除、税額控除を説明するとともに、申告・納税等の手続きにもふれる。理解を深めるため、計算および文章問題の練習を重視する。

（学習目標）
所得税の基本的仕組みを、体系的に理解する。

［講義計画］

1 日本の税制
2 所得税の納税義務者
3 非課税所得
4 事業所得
5 利子所得
6 配当所得
7 不動産所得
8 給与所得
9 退職所得
10 譲渡所得
11 山林所得
12 一時所得
13 雑所得
14 所得の総合課税と分離課税
15 所得控除
16 税額の計算
17 源泉徴収・年末調整

［成績評価の方法］

期末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。

［教科書］

石井敏彦編『実践　所得税の基礎から実務　平成15年度版』
（大蔵財務協会）

［参考文献］

日本税理士会連合会・中央経済社〔編〕『所得税法規集』（中央経済社）

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
税法 II （旧税法）		秋学期	2 単位	中田信正

［講義概要・学習目標］

（講義概要）
身近な税法として、相続税および贈与税の概要を講義する。まず、相続税の意義を明らかにするとともに、民法の相続に関する基本規定を説明する。ついで、相続税の納税義務者、課税財産および計算手続きを体系的に解説する。特に、重要な相続財産の評価の仕組みについても取り上げたい。
相続税の学習の後に、贈与税を学ぶ。贈与税は、財産の贈与を受けた個人にかかる税金であり、相続税の補完税の役割を持つ。講義では、相続税との関連を重視して贈与税の概要を解説したい。
理解を深めるため、計算および文章問題の練習を重視する。

（学習目標）
相続税および贈与税の基本的な仕組みを、体系的に理解する。

［講義計画］

I 相続税
1 相続税の意義
2 民法の相続に関する基本規定
3 相続税の納税義務者
4 相続税の計算の仕組み
5 相続財産の評価

II 贈与税
1 贈与税の意義
2 贈与税の計算の仕組み
3 贈与財産の評価

［成績評価の方法］

期末試験の成績によって評価する。試験は計算問題と論述問題を出題する。

［教科書］

『平成16年度版　やさしい相続税』（大蔵財務協会）

後半に使用する贈与税については別途指示する。

［参考文献］

日本税理士会連合会・中央経済社〔編〕『相続税法規通達集』（中央経済社）

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
コミュニケーション概論		春学期集中	4 単位	遠　山　　淳

[講義概要・学習目標]

コミュニケーションは生物の本能である。全生物がその機能を持つ。人間の行動・行為は複雑である。当然のことながら、人間を対象とするコミュニケーション研究も広範囲にわたり、学際的となる。

人類は、近年、コミュニケーション手段と機器のすさまじい発達を見た。情報は瞬時に世界を駆け巡り、国境を越え、文化を越え、個人の行動・行為に影響を与える。先年アメリカで起きた「同時多発テロ事件」への反応はまさに現代的であり、その情報が与えた政治的、経済的、文化的影響の規模は地球の「狭さ」を実感させ、われわれに「地球村」の到来を実感させた。イラク戦争もまた同様であった。

氾濫する情報、うろたえる人間。主役は情報か、人間か。

[講義計画]

1. 言語の獲得と発達過程
2. 言語的コミュニケーション（1）：言語と思考様式
3. 認知科学としてのコミュニケーション
4. 言語的コミュニケーション（2）：言語と意味
5. 動物のコミュニケーション
6. ノンバーバル・コミュニケーションの機能と理解
7. メッセージとは何か：解剖とルール
8. 広告のコミュニケーション
9. 「うわさ話」について
10. 説得の技術
11. テレビ・ゲームのコミュニケーション
12. 異文化コミュニケーション

[成績評価の方法]

期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。

[参考文献]

授業中に紹介する。

[教科書]

橋元　良明編著『コミュニケーション学への招待』大修館書店、1997

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
異文化間コミュニケーション論	01 02	春学期集中 秋学期集中	4単位 4単位	遠　山　　淳

[講義概要・学習目標]

講義の内容は、異文化間コミュニケーションの諸現象およびそのメカニズムや、情報、文化、コミュニケーションの相関関係、言語とコミュニケーション、宗教とコミュニケーション、歴史とコミュニケーションなどについて講義し、文明と文化、普遍文化と個別文化との関係、異文化理解、文化変容、地球化時代の価値観・行動様式について考察する。また英語・日本語教員志望者に配慮し、英米人のコミュニケーション特性についても講義する。

情報は文化を生成し、文化は人間に対して常に規範的に係わる。異文化理解も自文化からの自文化的な「理解」である。さて諸君はどこまで自文化を越えられるだろうか。

[講義計画]

1. 異文化間コミュニケーション論とは
2. 「文化」とは：静態と動態，定義，情報代謝理論
3. 自文化中心主義と文化相対主義
4. コミュニケーションの志向性と型，動因と文化型
5. 言語と文化：エティックとイーミック
6. 非言語コミュニケーション
7. コミュニケーション能力と言語能力
8. コミュニケーションの文化型：片立型文化と両立型文化

9－10. コミュニケーションの比較：日本とアメリカ

11. 「理解」法の文化比較：「わかる」こと、言行の一致と乖離
12. 定量的方法と定性的方法、特徴と限界

[成績評価の方法]

期末に試験／レポートを課し、出席と合わせて総合的に評価する。

[参考文献]

遠山他著・石井橋本編『日本人のコミュニケーション』桐原書店、1993

古田暁編・石井・久米他著『異文化コミュニケーション』有斐閣、1987

祖父江孝男『文化人類学入門　増補改訂版』中公新書、1992

遠山他編著『異文化コミュニケーションの理論』有斐閣、2001

[教科書]

遠山共編著『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣、1998

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
実務英語 （旧商業英語）	01	春学期集中	4 単位	三　宅　　亨

［講義概要・学習目標］

Globalization の進む中で、外国人とのコミュニケーションが益々必要になってきている。外国人との接触の機会は、かつてのように我が国への訪問者への対応だけでなく、今では同僚として、あるいは仕事の上での付き合いなど、日常的な生活の一部となりつつある。また、商用での出張、旅行などの短期訪問・滞在や転勤などによる長期海外生活をおくる日本人が珍しくない時代になってきた。

この講義では、外国人とのビジネス（社交面も含める）を円滑に進める上で最小限必要とされる英語(English for business)を取り上げる。毎回多量の英文を素早く読み取り、口頭および筆記による課題を与えるので、その覚悟で履修すること。

また、受講者には積極的に TOEIC を受験してもらいたい。

［講義計画］

テーマ

1．自己 PR
2．新聞・雑誌の英語
3．説明書（マニュアル）・注意書きなどの読み方
4．海外生活に必要な英語
5．実用文の英語
6．電子メール・手紙文
7．履歴書

なお、学期期間中の世界の動向に応じて、適宜、時事的なテーマを取り上げる予定である。

［成績評価の方法］

学期末定期試験は行わない。毎回の課題と出席、講義への参加度により評価する。社会人への訓練の場でもあるから遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なく６回以上休んだ学生には以後の授業参加を認めない。

［教科書］

教材はできるだけ最新のものを取り上げたいので、教科書は使用しない。その都度、プリント(handout)を配布する。

［参考文献］

授業中に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
実務英語 （旧商業英語）	02	秋学期集中	4 単位	三　宅　　亨

［講義概要・学習目標］

この講義では、従来の貿易通信文という枠を超えて、社交通信文や電子メールを含めて実社会で必要な実用英文を書くことに重点を置く。毎回、相当量の英文を書くという課題を与えるので、十分な予習をして授業に望むこと。受講者には積極的に TOEIC を受験してもらいたい。

［講義計画］

基礎
1．ビジネスレターとは
2．社内メモ
3．電子メール
4．ビジネス通信文の本体

社交通信文
1．出張に係わる文
2．紹介・招待
3．祝賀と弔意
4．社内外への通知文
5．英文履歴書

貿易通信文
1．取引関係の創設
2．売買契約の成立
3．売買契約の履行

［成績評価の方法］

学期末定期試験は行わない。毎回の課題と出席、講義への参加度により評価する。社会人への訓練の場でもあるから遅刻・欠席には厳しく対処する。正当な理由なく６回以上休んだ学生には以後の授業参加を認めない。

［教科書］

田中武雄『初めて学ぶビジネス英語』成美堂

［参考文献］

授業中に指示する。

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
世界の英語		春学期集中	4 単位	野　原　康　弘

[講義概要・学習目標]

最近、グローバル化が進行する中、英語は世界中で最も広く通用する国際言語の地位を獲得している。インドのように、英語を準公用語にしているところもある。英語の国際化は、一方では英語の多様化を招き、いろいろな英語が登場している。一昔前までは、主要な英語はイギリス英語とアメリカ英語で、その違いだけが注目されていた。しかし今では、イングランドの周辺だけでも、スッコトランド英語、ウェールズ英語、アイルランド英語がある。イングランドから遠く離れた地域にも、オーストラリア英語、ニュージーランド英語、南アフリカ英語、インド英語、カナダ英語、シンガポール英語などが存在し、無視するわけにはいかなくなってきている。変わったところでは、「商取り引き」のために生じた簡略されたピジン英語。アフリカの「シエラレオーネ」のフリータウンでは、そのピジン英語を母語とするクリオール　語さえ誕生している。一つだった英語が、それぞれの国や地域で、それぞれの歴史と文化の中で、その地域の言語と融合し、独自の発達を遂げていったわけである。この講義では、それぞれの英語の歴史的な背景と特徴を解説していくことにする。

[講義計画]

1．英語の歴史
2．イギリス英語
3．スコットランド英語とウェールズ英語
4．アイルランド英語
5．オーストラリア英語とニュージーランド英語
6．南アフリカ英語
7．アジアの英語
8．カナダ英語
9．アメリカ英語
10．ピジン英語

[成績評価の方法]

試験、出席

[教科書]

授業中に指示する

[参考文献]

授業中に指示する

経営 02～

科　目　名	クラス	講義区分	単位数	担　当　者
通訳法 (旧英・日語通訳法)		通　期	4単位	村　瀬　寿　代

[講義概要・学習目標]

プロの通訳者になるのであれば、英語力だけではなく日本語力が必要であるのは言うまでもない。それ以外にも専門知識、一般常識、理解力、判断力、幅広い知識やスキルが必要であると同時に、適正も重要である。このコースでは通訳の基礎を学ぶ。また、リスニング・スピーキング・リーディングの基礎力をつけるとともに、英語・日本語によるディスカッションを取り入れる。

授業は講義形式ではなく、参加型であるので学生からの積極的な参加を期待する。講義計画は学生のレベルに応じて変更する予定であるが、毎回復習・予習は必要である。基本的に授業は英語で行う。

[講義計画]

1. リスニングを含む小テストなど
2. 通訳の基礎(通訳法の訓練)
3. 英文パッセージを読み、トピックに関するディスカッションなど。

[成績評の方法]
クラスへの参加度、レポート。

[教科書]
西本徹・Benjamin Porter 著　*BOTH SIDES NOW* 成美堂

プリント配布

[参考文献]

授業中に紹介する。